

(2) 總噸數主義歐洲大陸海軍國トノ均勢維持主力艦艦齡延長等ニ就テハ英佛妥協案ニ對スル客年十月九日附對英國回答中ニ開陳セル伊國ノ見解ハ其ノ後國際政局ノ變轉ニ拘ラス何等ノ變化ヲ見ス

(3) 伊國ハ聯盟ノ軍縮事業ニ協力シ居ルヲ以テ來ルヘキ「ロンドン」會議ト「ジュネーヴ」トノ關係ヲ重視ス「ジョルナル」又「ジョルナル」、デイタリヤ「メッサジエロ」ハ回答中ニ何等留保ヲ記載セサルノ事實ハ何等豫メ「コンセツション」ヲ爲スノ趣意ニ非サル事ヲ特ニ指摘シ「テベレ」、「ボボロ、デ、ローマ」ハ英米關係ニ於テスラ一致セサル點アルニ顧ミ五國間ノ會談トナラハ一層困難ヲ豫想シ得ヘシ又艦種別制限ハ其ノ軍縮ヲ齎ス所以ニ非ストシ會議ハ結局英米ノ軍備擴張ニ終ル事トナラムカラ懸念セリ

第四章 會議開會前ニ於ケル日英米豫備交渉

第一節 日米豫備交渉

第一項 帝國全權米國經由問題

(一) 帝國全權米國經由方ニ關スル「スチムスン」國務長官ノ申出

十月十日出淵大使「コットン」國務次官往訪ノ序ヲ以テ米國側全權ノ顏觸ニ關シ質問ヲ爲シタル際同次官モ亦日本側全權ノ顏觸如何ト尋ネ出淵大使ニ於テ未タ何等承知セスト述ヘタル處次官ハ「實ハ日本全權カ「ロンドン」ニ赴カル途中之ヲ「ワシントン」ニ招待シテ懇談ノ機會ヲ造ルコト然ルヘシトノ考ニテ兩三日前國務長官ト相談シタルカ來週水曜同長官歸華次第(長官ハ目下紐育ニ滞在中)更ニ協議ノ上決定スル積リナリ」ト語レリ

越テ十六日出淵大使國務長官ノ求メニ依リ往訪セル處同長官ハ「實ハ明十七日常例會見ノ際御話スル考ナリシモ一日モ早キ方好都合ト考ヘ本日特ニ御來訪ヲ求メタル次第ナルカ日本全權「ロンドン」行ノ際ニハ「シベリア」鐵道ノ不便ナル現狀ニ顧ミ米國ヲ經由セルル事最捷路ナリト認メラル就テハ日本全權ニ於テ數日間「ワシントン」ニ立寄ラレ軍縮問題ニ付懇談ノ機會ヲ與ヘラルルヲ得ハ甚タ幸トスル所ナリ右貴國政府ヘ御傳達ヲ請フ」ト述ヘタルヲ以テ大使ハ「米國政府ノ好意ハ帝國政府ニ於テ大ニ多トスル所ナルヘシ」ト挨拶シタル上同大使含ミ迄ニ「日本全權ノ「ワシントン」立寄ハ何日頃ヲ以テ好都合トセラルル次第ナリヤ」ト尋ネタルニ長官ハ「只今ノ處明確ニハ申上ケ兼スルモ差當リ自分ノ思付トシテハ米國全權ハ多分一月十日前後ニ「ワシントン」ヲ出發スル事トナルヘキカ十二月下旬ハ「クリスマス」休日ノ關係モアルニ付新年早々日本全權ヲ「ワシントン」ニ御迎ヘスル事ヲ得ハ最好都合ナルヘク尙相成ルヘクハ日本全權ト同船渡英シ船中更ニ懇談ヲ繼續致シタキ考ナリ尤モ本日貴大使ト御話シタル次第萬一世上ニ漏ルルカ如キ事アラハ必スヤ歐洲方面ヨ

リ不要ノ疑惑ヲ招ク虞アルニ付本件ハ當分ノ間嚴ニ祕密ニ附セラレタシ」ト述ヘタリ
出淵大使ハ右國務長官トノ會談ヲ報告越スト同時ニ『長官カ本日取急キ本使ヲ招致シ右會談ヲ爲シタルハA P電報(註)ニ
刺戟セラレタル結果カト察セラル』ト附言セリ

(註) 十月十五日東京發A P電報ハ軍縮會議日本首席全權タルヘキ若槻前首相ハ十二月六日横濱出發米國經由
「ロンドン」ニ赴クヘク尙同氏ハ「ワシントン」ニ立寄り米國側ト話合ヲ爲スヤモ知レストノコトナリト報シ
十六日ノ米國各新聞ニ掲載セラレタリ

(二) 帝國政府ノ右申出受諾

帝國政府ハ前記(一)ノ國務長官申出ニ對シ考慮ヲ加ヘタル上十月二十二日左ノ通右申出ヲ受諾スヘキ旨出淵大使ニ電報セ
リ

『帝國政府ハ國務長官ノ申出ヲ受諾シ兩全權並隨員ノ一部米國經由渡英スルコトニ決定シ十一月三十日横濱發(「シアト
ル」行)「サイベリア」丸ニ乗船ノ準備中ナリ尤モ外部ニ對シテハ今則チ米國經由ハ「ロンドン」ヘノ捷路ヲ選ヒタルニ
外ナラストノ趣旨ニテ説明ノ積リナルニ付右御合ノ上國務長官ニ對シ可然回答アリタシ
追而全權一行ハ「ロンドン」ニ於ケル準備上ノ都合ニ依リ十二月二十一日「ニューヨーク」發ノ「オリムピック」號ニテ
出發ノ事ニ決定シ居ルニ付其積リニテ御應酬アリ度シ』

依テ出淵大使ハ二十三日國務長官ニ面會シ右ノ趣旨ヲ内報シタル處長官ハ日本全權カ「ワシントン」ニ立寄ララルコトナ
リタルニ對シ満足ノ意ヲ表シ外部ニ對スル説明振ニ付テモ全然同意ニテ過日來其心持ニテ新聞記者ニ接觸シ居ル(註)趣ヲ
述ヘタリ

(註) 二十二日各新聞ハ日本全權ノ米國經由ニ關シ國務長官ハ時日ノ關係上自然米國通過トナリタルモノナル
ヘキカ米國側ニ於テハ之ヲ歡迎スル旨述ヘタル趣ヲ報シタリ

第二項 比率問題ニ關スル米國側意見表示方懇談

(一) 十月十六日「スチムス」國務長官出淵大使會談

十月十六日日本全權米國經由方ニ關スル會談後出淵大使ハ國務長官ニ對シ政府訓令ノ趣旨(第三章第二節第二項參照)ニ
依リ比率問題等ニ關シ會議前豫メ三國間ニ話合ヲ纏メ置ク必要アル事ヲ力説シ『本件ニ付テ之迄屢々貴長官ニ懇談セル次
第モアリ既ニ考慮ヲ費サレタル事ト思考スル處大體ノ御意向ナリトテモ承ル事ヲ得サルヘキヤ』ト述ヘタルニ長官ハ『同
問題ハ自分ニ於テ決シテ等閑ニ付シ居ル儀ニハ非サルモ何分事柄ノ重大ナルニ顧ミ今俄ニ米國政府ノ意向ヲ御話スル事困
難ナリ本件ニ付テハ英國側就中「ドミニオン」中ニ反對アル様思ハルノミナラス先ニモ御話セル通日本側ニ於テ七割ヲ
主張スル時ハ佛伊亦比率ノ變更ヲ要求スヘキ虞モアリ旁本件ハ容易ナラサル問題ナリト思考ス』ト述ヘタルニ付大使ハ
『右英國「ドミニオン」側ノ反對ハ自分モ想像シ居ラサルニ非ス現ニ「オーストラリア」ノ如キ異論ヲ挾ミ居ルヤニ聞及
フモ右反對ハ眞ニ謂レ無キ次第ニテ日本カ同方面ニ何等ノ野心無キ事ハ何人ニモ明ナル筈ナリ
又佛伊側ニ關スル御懸念ハ然ルコト乍ラ日本ハ「ワシントン」會議劈頭ヨリ七割ノ要求ヲ強硬ニ主張シタルモ會議ノ圓滿
ナル進行ヲ期スル見地ヨリシテ結局難キヲ忍ビ主力艦ノ關スル限リ六割ノ比率ヲ受諾シ之カ爲非常ナル國論ノ反對ヲ惹起
シタルコト累次御話セル通ナリ』トテ七割ノ比率ハ舉國一致終始一貫シテ要求スル所ナルコトヲ重ネテ敷衍説明シ『本件
ニ付テハ松平大使ヨリ「マクドナルド」首相及「ドーズ」大使ニ懇談スル筈ナルモ兩者共ニ當分「ロンドン」ニ歸ラサル
一方我方トシテハ全權ノ本邦出發前會議ニ關スル準備ヲナス必要上早目ニ少クトモ米國政府ノ諒解ヲ得タキ趣旨ナルニ付
テハ此際成ルヘク速ニ何分ノ御意向ヲ承知シタク自分ハ何時ニテモ貴長官トノ間ニ豫備的話合ヲ爲ス用意ヲ有ス』ト告ケ
長官ノ切實ナル考慮ヲ促シタルニ長官ハ『何レ篤ト大統領ト相談ノ上何分ノ御挨拶ヲ爲スヘシ』ト答ヘタリ右會談ノ際長
官ハ『英米間ニハ均勢ヲ維持セサルヘカラサル主張アリ佛伊ノ間ニモ同様ノ問題アル處日本ノミスノ如キ困難ナル問題ニ
煩ハサレサルハ誠ニ羨シ』ト云ヘルニ付大使ハ『日本ノ立場ハ全ク「インデペンデント」ニシテ要スルニ我方ノ欲スル所

ハ眞實ナル海軍縮少及七割要求ノ二點ニ過キサル次第ナリ』ト告ケタリ

次ニ出淵大使ヨリ『前回貴長官ト會談ノ際巡洋艦總噸數低下方ニ付更ニ英國側説得ニ努メラルル御方針ノ由承リタルカ其後「マクドナルド」首相ト會談ノ結果右低下ニ付何等見込附キタリヤ』ト尋ネタル處長官ハ『大型巡洋艦ノ割當ニ付テハ決定スル所ナキモ巡洋艦總噸數ニ關シテ結局幾分之ヲ低下セシメ得ヘキ見込アリ』ト云ヘリ最後ニ大使ヨリ『マクドナルド』首相ト大統領ト會談ノ際海洋自由、防備撤廢等ノ問題議セラレタルヤノ新聞報道アル處此等問題カ「ロンドン」會議ニ上議セラレルカ如キ事アルヘキヤ』ト尋ネタルニ長官ハ『世上種々ナル憶説流布セラレルモ海洋自由問題ニ付テハ別段討議シタル事實無シ又防備撤廢問題ニ付テハ西半球ニ於ケル英國ノ洋上防備撤廢ニ關シ種々懇談アリシモ右ハ要スルニ英米間ノ問題ニ過キサルヲ以テ「ロンドン」會議ニ上ルカ如キ事無カルヘシト思考ス』ト述ヘ尙右「マクドナルド」首相大統領會談ノ件ハ極秘ニ附セラレタシト特ニ附言セリ

(二) 十月二十三日「スチムスン」國務長官出淵大使會談

十月二十三日日本全權米國經由方申出受諾ニ關スル會談後出淵大使ヨリ國務長官ニ對シ比率問題ニ關シ『去ル十六日ノ會談後長官ニ於テ相當考慮ヲ進メラレタルコトト思料スル處日本全權ノ出發期モ愈確定シタル今日帝國政府トシテハ準備ノ都合上一日モ速ニ米國政府ノ意嚮ヲ承知シ度ク就テハ何日頃本問題ニ付本使ト意見ヲ交換シ得ラルヘキ見込ナリヤ』ト尋ネタルニ對シ長官ハ『本問題ノ困難ナルコトニ付テハ屢々申上ケタル通ニテ米國側ニ於テ容易ニ其態度ヲ明カニシ得サルコトハ貴大使ニ於テモ察セラレルコトト存ス過般來貴大使ヨリ米國側大型艦ノ數ヲ減スルコトニ付屢々御話ノ次第アリタルカ實ハ大統領モ自分モ豫テ申上ケタル通熱心ナル軍縮ノ意嚮ヲ有スルモ海軍側ニ於テハ中々強硬ナル意見行ハレ英國カ三十三萬九千噸以下ニ切下クルコトニ同意セサル限りハ米國側ニ於テ大型二十一隻ヲ主張セサルヘカラスト固執シ居リ一方「マクドナルド」首相ニ於テモ吾人ト同シク軍縮ヲ希望シ居ルモ英國海軍ハ之亦強硬ナル態度ヲ持シ中々困難ナル立場ニアリ日本ノ七割主張ハ總噸數ニ對スル儀ナラハ兎ニ角米國ノ保有セントスル大型巡洋艦ニ對シテ主張セラルル次第ナル

ヲ以テ英國側トノ間ニモ難カシキ關係ヲ生シ頗ル困難ナル事情ニアリスカル譯合ニテ遷延シ居ルモ成ルヘク速ナル機會ニ於テ本問題ニ付貴大使ト意見ヲ交換シタキ考ナリ目下米國側ニ於テ日、英、米ノ巡洋艦ノ詳細ナル表ヲ作成中ナルニ付右完了次第會談ノ運ヒニ至ルヘシ』ト語レリ尙其際大使ヨリ『過日「キャンブ」ニ於ケル英首相トノ會談ノ際日本ノ主張スル比率問題ニ關シ何等カノ討議ヲ爲シタルコトアリヤ』ト尋ネタルニ長官ハ『貴大使ノ御話ノ次第ハ早速大統領ニ直接報告シ尙英首相ニモ自分ヨリ傳ヘタル處首相ハ日本ノ主張ハ既ニ「ロンドン」ニ於テ松平大使ノ話ニ依リ好ク承知スト述ヘタル丈ニテ「キャンブ」ノ會談ハ專ラ英米間ノ關係ヲ議スル建前ナリシ關係上進シテ討議スルニ至ラサリキ』ト述ヘタリ

(三) 十月三十一日「スチムスン」國務長官出淵大使會談

十月三十一日出淵大使定例會見日ヲ利用シ國務長官ニ面會前記十月二十三日ノ會談ニ基キ軍縮ニ關スル意見交換方ニ付催促シタル處長官ハ『先般來貴大使ヨリ屢々御話アリタルコトハ最近繰返シ大統領ニ報告シ又全權ニ内定セル「リード」「ロビンソン」兩氏ニモ詳細説明シ相談ヲ重ネ居ル次第ナルカ今以テ議熟スルニ至ラス從テ貴大使トノ會談ノ機會遷延シ居レハ洵ニ申譯ナキ次第(apoloize)ナリ「ドーズ」大使モ來週末頃ニハ「ワシントン」ニ歸ル筈ナレハ成ルヘク速ニ内部ノ話ヲ纏メ來週遅クトモ來週中ニハ貴大使ト意見交換ノ運ヒニ至ル様取計フコトニスヘシト』答ヘタリ

第三項 比率問題ニ關スル「スチムスン」國務長官覺書及右ニ對スル出淵大使反駁

(一) 「スチムスン」國務長官ヨリ比率問題ニ關スル覺書手交及右ニ關スル

同長官出淵大使會談

十一月十二日出淵大使國務長官ノ求メニ依リ往訪シタル處

(一) 先ツ長官ヨリ『過般來貴大使ヨリ再三申出ラレタル補助艦比率就中米國ノ保有ヘキ大型巡洋艦ニ對スル七割ノ主張ハ如何ニモ困難ナル問題ニテ遂今日迄回答遷延シ居タル次第ナルカ』ト言譯シタル上『本日ハ會談ノ基礎トシテ自分一己ノ考ヲ率直ニ開陳シタル一ノ「テンタティブ、ステートメント」ヲ差上クル積リニテ此處ニ用意シ置キタルカ右ニ對シ説明ヲ爲スニ先立チ萬一ノ誤解ヲ避クル爲特ニ申上タキ事ハ物事ハ之ヲ書付ニ認メル場合ニハ自然堅苦シクナル事ハ免

レサル次第ナリ此覺書ハホンノ口上代リニ認メタルモノニテ今後會談ノ結果自分ニ於テ誤解シ居ル點アリトセハ何時タリトモ喜テ訂正スル覺悟ナレハ其點ヲ特ニ諒解セラレ本日ノ會談ヲ貴國政府ニ報告セララル場合ニハ辭句ノ末ニ於テ無益ノ誤解ヲ惹起スカ如キコト無キ様特ニ御配慮ヲ得タシ』ト念ヲ押シ

(二) 次ニ長官ハ右覺書(全文本項(二)ニ記載)ヲ手ニシツツ要所ニ付敷衍説明シ先ツ第一ニ比率ナル言葉ハ成可ク避クルコトトシ實際的ニ解決ノ途ヲ計ルコト最適切ト思考スル旨ヲ繰返シ述ヘタルニ付之ニ對シ大使ハ『軍縮ニ關シ協定ヲ爲ス以上何等カノ標準ヲ必要トスル次第ニテ漫然實際的ノ事情ニ依リ協定ヲ遂ケントスルモ容易ニ其ノ目的ヲ達シ得サルヘシト思考スル米國側ニ於テ主張セラルル「バリテ」モ實ハ比率ニ外ナラサルヘシ』ト應酬シタリ

(三) 次テ長官ヨリ日本側ニ於テ七割ヲ主張セラルルハ軍縮問題ノ歴史ニ徴シ其ノ態度ノ變更ト認ムルノ外ナク日本側ニ於テ新ニ斯カル主張ヲ固執セラルルハ會議ノ圓滿ナル進行ヲ期スル所以ニ非サルヘシトテ「ワシントン」會議ニ於ケル加藤全權ノ陳述ヲ援用シ『五—五—三ノ比率ハ獨リ主力艦ノミニ對スルモノニ非スシテ他ノ艦種ニモ適用アルコト當時ノ記錄ニ依リ明カナリ(第二章第八節第七項註一參照)日本ハ當時事實上補助艦ニ關シテモ六割ヲ同意シタルノミナラス別ニ太平洋防備協定ニ依リ頗ル有利トナリタリ換言スレハ日本ハ六割ノ比率ト防備ノ現狀維持ニ依リ二重ニ「セキユリテ」ヲ得ラレタル次第ナリ自分ハ最近迄比律賓總督タリシ關係上防備問題ニ關スル米國人ノ感想ヲ最モ良ク承知シ居ルモノナルカ日本ニ於テ若シ補助艦ニ關シ飽迄七割ヲ主張セラルルコトヲ知ラハ比島方面ニ於ケル米國人ハ頗ル不安ニ感シ必ス種々ナル議論沸騰スルニ至ルヘク獨リ比島ノミナラス本國ヨリ隔絶セル「オーストラリア」等ノ英領諸島ニ於テ必ス問題起ルヘシ』ト語レリ

右ニ對シ出淵大使ハ『本日長官ヨリ日本ノ七割要求ハ其ノ態度ヲ變更セルモノナリトノ御話ヲ承ルハ眞ニ意外トスル所ナリ自分ハ豫テ申上ケタル通り「ワシントン」會議當時ハ隨員ノ一人トシテ參與シタル關係上或ル程度迄ノ智識ヲ有スルモノナルカ今長官ノ述ヘラレタル加藤全權ノ陳述ナルモノハ主義上米國側ノ提案ニ同意シタルコトヲ述ヘタル迄ニテ

六割ノ比率ヲ其儘是認シタル次第ニハアラス日本カ會議ノ當初ヨリ七割ヲ主張シ居リタルコトハ明瞭ナリ

唯會議ノ圓滿ナル進行ニ貢獻スル爲難キヲ忍ビテ主力艦ニ關シ大體六割ノ比率ヲ承諾スルト同時ニ右承諾ニ關聯シ太平洋防備現狀維持ニ關スル提議ヲ爲シ關係國ノ同意ヲ得タル次第ニテ防備現狀維持ハ六割ヲ受諾スル爲ノ附帶條件ト稱スヘク右兩者カ二重ニ日本ノ「セキユリテ」ヲ保障スルニアラス日本ハ兩者ヲ併セタルモノニ不承不精同意ヲ表シタルニ過キサル次第ナリ又長官ハ加藤全權ノ陳述ニ依リ日本ハ補助艦ニ付テモ六割ノ比率ヲ受諾シタルモノト諒解シ居ラルルカ如キモ斯カル協定ヲ爲シタル事實ナキコトハ當時ノ記錄ニ依リ明瞭ニ諒解セラルヘシ即チ英國全權ハ補助艦ニ關シ大體米國原案ノ比率ニ同意スル意味合ヲ表明スルト共ニ英國ノ國情上多數ノ小型巡洋艦ヲ必要トスル事ヲ他日ニ留保シ又佛國全權ハ補助艦ニ關スル限リ米國案ニ絶對ニ反對シタリ從テ其ノ實完全ニ同意成立シ居ラサリシ補助艦比率問題ハ漸ク最近ニ至リ英米間ニ大體話合付キタル次第ト認メラル日本ニ於テ今般補助艦ニ付七割ヲ主張スルハ「ワシントン」會議ニ於テ右ニ關スル比率懸ラサリシニ鑑ミ既ニ解決セル主力艦問題ハ之ヲ切放シ其ノ未解決ナル補助艦ニ付主張スル場合ニテ右七割ハ前ニモ申シタル通り「ワシントン」會議ニ於テモ當初ヨリ主張シタルモノニシテ斷シテ日本政府ノ態度變更ニアラサルコト特ニ念頭ニ置カレ度シ』ト述ヘタルニ長官ハ『實ハ今般初メテ軍縮問題ヲ研究シタル關係上本日御話シタル事柄ニ付テハ多少調査シテ點モアルヘキニ付更ニ研究シ置クヘシ』ト語レリ

依テ出淵大使ハ引續キ『我全權ハ關係各國ニシテ補助艦ニ關シ何等カノ協定ニ達シ得ルニ於テハ米國側ノ提議ヲ考慮スルニ吝ナラストノ意味合ヲ述ヘタリト記憶ス免ニ角「ワシントン」會議ニ於テハ補助艦割合當ニ關シ何等協定ヲ見ルニ至ラサリシ事周知ノ事實ナリ貴長官ハ英米ノ關スル限リ巡洋艦ニ關シ均勢ノ約束成立シ居リタルカ如ク語ラレタルモ自分ノ見ル所ヲ以テスレハ大體ノ諒解ハアリタルニモセヨ實際問題トシテハ所謂均勢ナルモノニ付適確ナル約束ナカリシコトハ「ワシントン」會議以後ニ於ケル英米ノ關係ニ徴シ歷然タルモノアルノミナラス現ニ昨夜大統領ハ公開ノ席上「ロンドン」會議ノ前提トシテ英米間ニ「バリテ」ノ成立シタルコトヲ高唱セラレタリ』(註)ト述ヘタリ

(四) 長官ハ『日本ニ於テ當初ヨリ七割ヲ主張セラレ居ルコトハ御話ノ通トシテ七割主張ノ論據ヲ承リ度シ』ト論鋒ヲ轉シタルニ付大使ヨリ『右ニ付テハ屢々御話シタル通日本ハ島國タル國情食糧原料等ノ自給自足不可能ナルコト並世界各方面ニ通商商路ヲ有シ居ルコト其他種々ナル事情ニ基クモノナルカ右ニ關シ進シテ議論スルニ先立チ本使ヨリ淡白ニ長官ニ伺ヒ度キハ國情及天然資源ニ於テ著シキ相違アル米國カ英國ニ對シ何故ニ絶對的均勢ヲ主張セラルルヤ其ノ理由ヲ承リ得ヘキヤ』ト反問シタル處長官ハ頗ル當惑シタル態度ヲ示シ『米國カ英國ニ對シ均勢ヲ主張スルハ斯クスルニ非サレハ米國民ハ其ノ「セキユリティー」ニ關シ不安ヲ感スルカ爲ナリ』ト逃ケタルニ付大使ヨリ『日本ニ於テ七割ヲ主張スル根本的動機ハ取リモ直サス米國同様「セキユリティー」ノ問題ニ歸着スルニ外ナラス』ト應酬シタリ

(五) 長官ハ『今日米國ニ於テ大統領始メ熱心ニ希望シ居ルコトハ眞實ニ海軍ヲ縮少センコトニアリ其點ニ付テハ終始日本ノ同情ヲ得幸ニ感シ居ル次第ナルカ日本カ軍縮會議ニ臨ムニ當リ七割ヲ主張セラルルニ於テハ大型巡洋艦ニ付却テ擴張ノ結果トナルニ非サルヤ』ト述ヘタルニ付大使ヨリ『日本ハ眞實ニ軍縮ヲ希望シ居ル次第ニテ現ニ屢々自分ヨリ長官ニ對シ保有總噸數殊ニ大型巡洋艦ニ於テ切下ケヲ望ム旨申述ヘ置キタルカ若シ米國ニシテ此ノ上トモ英國ヲ説キ補助艦總噸數就中大型巡洋艦ノ數ヲ減少セシムルコトヲ得ラルルニ於テハ日本ハ同艦種ノ噸數ヲ増加スル必要ナキノミナラス英米側ノ眞實ナル軍縮遂行ニ對シ他迄協調スヘキコト申ス迄モナシ昨夜大統領ノ演說中米國ハ serious reduction ヲ希望スル旨言明セラレタルカ米國カ英國トノ間ニ大型巡洋艦ニ付二十一隻乃至十八隻ヲ議論シ居ラルルコトハ英國トノ均勢維持上相當理由アルヘシトハ思考スルモ觀方ニ依リテハ擴張ヲ主張セラルルモノト認メラルヘク日本カ軍縮會議ヲ控ヘ乍ラ軍備ノ擴張ヲ爲スモノナリトノ御意見ハ甚タ當ラサルモノト認メラル要スルニ比率問題ト比率ニ達スル迄ノ建造ハ別問題ナリ日本ノ主張スル所ハ總體的勢力ニ於ケル七割ナルヲ以テ米國ニ於テ此ノ上トモ極力英國ヲ引摺リ軍縮ヲ斷行セラルルニ於テハ日本ニ於テモ出來得リ限リ縮少ニ努ムルモノナルコトヲ篤ト諒解セラレタシ』ト切言シタリ

(六) 最後ニ長官ヨリ『先般來英米間ニ協議シタル事項ニ付テハ大體隨時貴大使ニ御話シ置キタルモ今後ノ會談ノ參考トシ

テ書附トシテ差上クル方然ルヘシト思考シ本日ノ覺書中ニ列舉シ置キタル次第ナルカ潜水艦驅逐艦ノ問題ハ後日ノ會談ニ讓リ本日ハ特ニ主力艦ニ付御話シ貴國政府ノ考慮ヲ煩ハシタシ實ハ英國側ニ於テハ主力艦艦型ノ縮小ニ依リ軍縮ノ目的ヲ達スル一端ト爲シタキ意向ナルカ米國側ニ於テハ艦型ヲ小ナラシムル事ニハ絶對ニ反對ニシテ艦型ハ「ワシントン」條約規定通トシ出來得ル限リ關係國ノ保有艦數ヲ減少シタキ意嚮ナリ』ト語レリ

(七) 右會談ハ約一時間ニ亙リタルカ双方共ニ『本日ハ當座ノ思付ニ依リ遠慮無ク所見ヲ述フヘシ』トノ前提ノ下ニ行ハレタルモノニテ可成リノ議論ヲモ戰ハシタルカ別ルルニ臨ミ長官ヨリ『米國ノ當惑シ居ルハ日本ヨリ七割ナル拔差シナラヌ比率ヲ提議セラレ而カモ大型巡洋艦ニ對シ米國ノ保有量ニ對スル七割ヲ主張セラルル點ニ在リ米國側ニテハ若シ日本カ比率問題ヲ前提トセス何々艦ハ之ヲ保有シ度シトカ何々艦種ハ是非其何隻ヲ必要トスルトカ實際問題ニ付申出テラルルニ於テハ充分考慮ヲ加フル覺悟ナルニ付其點特ニ含置カレ度シ尙本日ノ覺書ノ性質ニ付テハ會談ノ始ニ特ニ申上ケタル通ナリ又米國政府ハ日本ノ協調的態度ヲ深ク感謝シ居リ今回ノ會議ニ付テハ飽迄日本ト協調シタキ精神ヲ有スルコトハ充分諒解セラレ度シ』ト繰返シ説明シ尙『自分ハ明日ヨリ數日間ノ休暇ヲ得タルニ付次回ノ會談ハ來週始ト致度シ』ト述ヘタリ

(註) 十一月十一日大戰記念日ニ際シ大統領ハ「アメリカン・リーダー」主催ノ會合ニ於テ演說ヲ爲シ先ツ世界大戰ノ教訓ニ鑑ミ平和維持ノ肝要ナル所以ヲ述ヘ次テ不戰條約ノ成立ニ言及シタル後軍縮問題ニ關シ軍備競爭ヨリ生スル危險ヲ除去センカ爲余ハ再ヒ海軍ニ關スル協議ヲ開始セリ余ハ來ル「ロンドン」會議ノ成功ヲ確信スル者ニテ右會議ヲ提唱スルニ當リ既ニ英國ト均勢ニ付合意ヲ遂ケタルカ海軍ノ serious reduction ノ行ハレンコトヲ希望ス凡ソ紛爭ノ平和的解決方法ヲ確立シ又侵略ヲ阻止スル輿論ノ力カ多年ノ試練ヲ經タル後ニ非サレハ適當ナル國防ヲ放棄スルモ差支ナシトノ確信ヲ生スルモノニ非ス故ニ余ハ國防ノ爲ニ適當ナル用意ヲ備ヘ置クヘキコトヲ主張ス尤モ適當ナル國防ハ相對的ノモノナルニ付我國ハ他國ニ比例シテ海軍ヲ

縮少スヘキヲ以テ他國側ニ於テ如何ナル程度迄切下ケ得ルカヲ明カニスヘキ筋合トナルヘク米國トシテハ如何ナル切下ケモ低キニ過クト爲スカ如キコトナシト述ヘ更ニ海洋自由ノ問題ハ國際紛爭平和の處理方法確立セハ單ニ學究的議論トナルヘキモ余ハ此處ニ之カ實際的解決ヲ提案セントス右ハ單ニ一般ノ考慮ヲ求ムル爲ニシテ如何ナル國ニ對シテモ政府ノ提案トシテ提出セラレタルコトナク又今提出スルモノニ非サルハ勿論今次ノ「ロンドン」會議ニ提出セントスルモノニモ非ス余ノ提案ハ食糧船ヲ病院船ト同様ニ取扱ハントスル者ニシテ今後ハ饑饉ニ瀕セシムルコトヲ戰爭ノ一方法トスルヲ廢止セサル可ラス云々ト論セリ

(1) 比率問題ニ關スル「メチムスン」國務長官覺書原文

AIDE-MÉMOIRE

You have asked me for an expression of my policy as to the proposed ratio for Japan in the several classes to be dealt with at the London Conference, and you have suggested that Japan desires ratio not of 5-3 but 10-7 in the cruiser class particularly as to the type armed with 8-inch guns.

You will realize that one of the great difficulties of the Conference will come in the desires of France and Italy to keep same ratios with each other and it may well be said that the word "ratio" will be an unfortunate word in the London Conference. It may be possible that the eventual settlement will be made as a result of actual conditions in ships rather than ratios.

I have not reached final opinions on Conference matters and hope to go to the Conference with no fixed positions on the topics that are to come up. I look forward to the personal meetings with your representatives to get a knowledge of your particular problems and wishes, and recall the effective support for reduction which the Japanese delegation afforded our delegation both at Geneva and Washington. In that light you will understand my answer. You will understand also I am speaking what is in my mind with great frankness and not guardedly as if I were stating final positions.

I do not believe that a change in the attitude of the Japanese Government on its ratio in the cruiser class increasing it to 10-7 is likely to be conducive to the success of the Conference. I desire to state quite frankly and at

some length my reasons for my belief.

The Washington Conference was an attempt to limit naval armament in order to remove the incentive of one nation to build against another. The formula which was proposed by that Conference to end the competition was that Great Britain and the United States should agree that their fleets should be equal, the theory being that inasmuch as future building could not change that equality, the incentive to build would be gone. The formula between Japan and the United States was that a ratio of 5-3 would result in satisfactory naval strength in Japanese waters. If your will refer to the record of the Conference you will find that the original formula proposed by this Government covered not only capital ships and aircraft carriers but also all auxiliary combatant craft, and specifically covered cruisers, destroyers, and submarines. This proposition was accepted on behalf of Japan by Baron Kato.

He said: "Gladly accepting therefore the proposal in principle Japan is ready to proceed with determination to a sweeping reduction in her naval armament."

And again he said: "Japan has never claimed nor had any intention of claiming to have a naval establishment equal to that of either the United States or the British Empire. Her existing plan will show conclusively that she had never in view preparation for offensive war."

Later the position of Japan was greatly solidified by Article 19 of the Treaty under which Japan, Great Britain and the United States undertook to maintain the status quo to military stations in Pacific waters within a large radius from Japan. The point I am emphasizing at the moment is that the net result gave Japan a naval position in the East which more than adequately protected her interests without any increase in the 5-5-3 formula. Under these circumstances it would seem that to increase Japan's ratio to 10-10-7, would in view of these restrictions on American and British defenses in Eastern Waters, tend to increase her strength beyond that which is necessary for defensive purposes.

Therefore I had considered that I should accept the statements made on behalf of Japan at the Washington Conference, in view of the circumstances attending their utterance, as a considered and final statement of naval policy largely dependent on the agreement as to bases, in the same way that the agreement as to bases is dependent on it.

After the Washington Conference, it is true, there was substantial building in the cruiser and submarine classes by various nations, and the race for armament seemed again to be forcing a needless and dangerous financial burden on

the nations.

To attempt to deal with that situation the Geneva Conference was called, and if you will refer to the invitations to that Conference you will remember that it was called in an attempt to carry on the principles laid down at Washington.

The Geneva Conference failed largely because of difficulties between Great Britain and the United States, and in that Conference Japan always took the position that she desired to limit the tonnage in each class, and to put that limit down as low as other nations would agree. At that time Great Britain desired a large number of cruisers; the United States was not willing to accede.

Recently we have entered into the communications which you know about with Great Britain. In those communications and in our conferences with Mr. MacDonald we have not discussed the Japanese ratio or the Japanese position, feeling that it would not help to discuss such questions when the representatives of Japan were not present, therefore what I am now saying to you is in no wise a statement of the British position, nor am I informed whether or not the British agree with what I am saying.

The general range of our discussions with the British has been as follows:

We considered the submarine category together and found that both of us would be willing to abandon the submarine entirely. We felt doubt as to whether either Japan or France and Italy would so agree. We felt that, if submarines were not to be abolished we were willing to limit the building of them, and we expected that Japan would probably have the same idea as to submarines although we knew that Japan had, built and building, a very substantial submarine tonnage, probably above any ratio of 5-5-3.

When we came to discuss the destroyer class we found that the United States was at the moment possessed of a large number of destroyers built for the purpose of the last war. We have discussed this class with Great Britain and feel that we should be glad to put the limit of this destroyer class as low as practicable, and we talked of a limitation, between 150,000 and 200,000 tons.

In respect to capital ships, the United States' suggestion was that there should be no replacements or a minimum of replacements other than those necessary to work out in 1936 the 5-5-3 ratio. That, as pointed out, would mean a large saving in money. Great Britain did not take any final position as to capital ship replacements but suggested that,

all nations should make some replacements in a smaller type of battleship perhaps 25,000 tons. We are not inclined to accord with this last suggestion as it is out of accord with our historic naval views. We have promised Great Britain to consider it and feel that it is a matter which could safely be left to the London Conference.

When we came to more difficult cruiser class our effort was to persuade Great Britain to be satisfied with what we regarded as small number of units and lower tonnage than they asked at Geneva. They finally made suggestion that they would be satisfied with about 50 units with tonnage of about 340,000 tons in 1936 (this is about their present strength), with replacement program of, say, two cruisers a year until 1936, making a total of 14 replacements. That would make their 1936 cruiser status fifteen 8-inch gun cruisers, a total of 146,000 tons, and about 192,000 tons smaller 6-inch cruisers, many of which would be old. Suggestions were made between us of some method of providing a common yardstick for measurement which would make due allowance for greater age and inferior gun calibre of the British fleet as compared with American cruiser fleet which, Great Britain suggested should consist of 10 of our Omaha class (7,000 ton 6-inch); 18 of 10,000 8-inch class and a further number of smaller 6-inch gun cruisers to accomplish parity with Great Britain under such terms as we might agree on as constituting total cruiser equality. United States naval advisers on the other hand felt that the United States should have at least 21 of the 10,000 ton 8-inch gun type to make up for the disparity in displacing tonnage. When we reached this point we thought we were near enough agreement with Britain to leave the matter safely to the conference, and in that situation the matter has been left.

(右譯文)

貴官ハ「ロンドン」會議ニ於テ取扱ハルヘキ數艦種ニ關スル日本ノ要求比率ニ付子ノ政策ヲ表明センコトヲ求メラレ且日本ハ巡洋艦殊ニ八吋砲裝備ノ艦船ニ付五—三ノ比率ニ非スシテ一〇—七ノ比率ヲ希望スル旨申述ヘラレタリ

貴官モ御察知ノ通今次會議ノ最大難關ノ一ハ佛伊兩國カ其ノ相互ノ間ニ於テ同一比率ヲ保持セント希望スルコトニ存スヘク從テ「ロンドン」會議ニ於テハ「比率」ナル文字ハ甚タ面白カラサル文字ト云フコトヲ得ヘシ或ハ比率ニ依ラスシテ寧ロ艦船ノ現實狀態ノ結果トシテ究局的解決ヲ遂クルコト可能ナルヤモ知レス子ハ未タ會議ノ事項ニ關シ最終的意見ニ達シ居ラス且會議ニ上ルコトアルヘキ問題ニ付何等確定セル見解ヲ持セスシテ會議ニ臨マント欲ス子ハ貴國ノ特殊問題並欲求

ヲ知ランカ爲貴國代表諸氏ト親シク會合センコトヲ鶴首ス又予ハ「ジュネーヴ」及「ワシントン」ニ於テ日本代表カ米國代表ニ與ヘラレタル縮少ニ對スル有效ナル支持ヲ回想ス此ノ意味ニ於テ貴官ハ予ノ回答ヲ了解セラルヘシ貴官ハ又予カ予ノ胸中ニ藏スルモノヲ極メテ率直ニ陳述シツツアルモノニシテ恰カモ最終的意見ヲ述ヘントスルカノ如キ慎重ナル言葉使ヒヲ爲スモノニ非サルコトヲ了解セラルヘシ

予ハ日本政府カ其ノ比率ニ關スル態度ヲ變更セラレ巡洋艦種ニ於テ一〇—七ニ増率セラレタルコトハ恐ラク會議ノ成功ニ資スル所ナカルヘシト信ス予ハ率直ニ且稍詳細ニ右予ノ所信ノ理由ヲ陳述セント欲ス

「ワシントン」會議ハ或一國ヲシテ他國ニ對シテ建造ヲ爲サシムヘキ誘因ヲ除去センカ爲海軍軍備ヲ制限セントスル試圖ナリキ競争阻止ノ目的ヲ以テ同會議ニ依リテ提議セラレタル方式ハ英國及米國ハ其艦隊ヲ均勢タラシムルコトニ同意スヘキコトニアリ即チ將來ノ建造ハ右均勢ヲ變更スルコト能ハサルカ故ニ建造ノ誘因ハ除去セラルヘシト云フニアリ日本ト米國トノ間ノ方式ハ五—三ノ比率ハ日本近海ニ於テ充分ナル海軍力ヲ日本ニ與フヘシト爲スニアリ若シ貴官ニシテ同會議ノ記錄ヲ參照セラルルニ於テハ貴官ハ米國政府ノ原提案ハ主力艦及航空母艦ノミナラス一切ノ補助艦艇ヲモ包含シ特ニ巡洋艦、驅逐艦及潛水艦ヲ包含セシコトヲ見出サルヘシ右提議ハ加藤男爵カ日本ヲ代表シテ受諾セラレタル所ナリ

加藤男爵ハ「故ニ日本ハ右提案ヲ主義上受諾シ日本海軍軍備ノ大々的削減ニ着手スルノ用意アリ」ト述ヘラレタリ同男爵ハ更ニ「日本ハ未タ曾テ英國又ハ米國ノ海軍ト均勢ノ海軍ヲ有センコトヲ主張シタルコトナク又之ヲ主張セントスルノ意思ヲ有シタルコトナシ日本ノ既定計畫ハ日本カ未タ曾テ攻撃戰爭ノ準備ヲ企圖シタルコトナキヲ明確ニ立證スヘシ」ト述ヘラレタリ

其後日本ノ地位ハ「ワシントン」條約第十九條ニ依リテ大ニ確保セラレタリ即チ同條ニ依リ日本、英國及米國ハ太平洋上日本ヲ中心トシテ長距離ノ行動範圍内ニ在ル要塞及海軍根據地ノ現狀維持ヲ約定セリ予ノ茲ニ力說セントスル點ハ此ノ結果ハ極東ニ於テ五—三ノ比率ヲ増加セストモ其ノ利益ヲ充分保護シ得ヘキ以上ノ海軍力ヲ日本ニ與ヘタルモノナルコ

トニアリ右ノ事情ヨリ考フレハ日本ノ比率ヲ一〇—一〇—七ニ増加スルコトハ東部海岸ニ於ケル此等英米防備ノ制限ニ鑑ミ日本ノ勢力ヲ防禦ノ目的ニ必要ナル以上ニ増加スルノ嫌アルヘシ

故ニ予ハ「ワシントン」會議ニ於テ日本ヲ代表シテ爲サレタル陳述ハ右陳述ノ爲サレタル當時ノ事情ニ鑑ミ根據地ニ關スル協定カ海軍政策ニ依據スルト同様ニ海軍政策カ主トシテ根據地ニ關スル協定ニ依據スルコトヲ熟考ノ上最終的ニ陳述セラレタルモノナリト解スルモノナリ

「ワシントン」會議後各國ニ依リテ巡洋艦及潛水艦ノ多大ノ建造行ハレ軍備競争ハ再ヒ各國民ニ危險ナル財政的負擔ヲ強フルノ觀ヲ呈セリ此ノ事態ニ處センカ爲「ジュネーヴ」會議召集セラレタルカ若シ貴官ニシテ同會議招請狀ヲ參照セラルルニ於テハ貴官ハ右會議ハ「ワシントン」ニ於テ規定セラレタル原則ヲ續行スルノ目的ヲ以テ召集セラレタルコトヲ記憶セラルヘシ

「ジュネーヴ」會議ハ主トシテ英米間ノ難局ニ依リテ失敗セリ同會議ニ於テ日本ハ常ニ各艦種ノ噸數ヲ制限シ他ノ諸國カ合意シ得ヘキ最低限度迄右制限ヲ低下センコトヲ欲スル旨主張セリ其際英國ハ巡洋艦ノ多數ヲ要求シ米國ハ之ニ同意スルノ意ナカリキ

最近吾人ハ貴官御了知ノ如ク英國ト交渉ニスレリ右交渉並「マクドナルド」氏トノ會談ニ於テ吾人ハ日本ノ比率又ハ日本ノ地位ヲ討議セルコトナシ蓋シ吾人ハ日本ノ代表者ノ列席セサル際右ノ如キ問題ノ討議ヲ爲スモ益ナシト信シタレハナリ故ニ今予ノ貴官ニ述ヘントスル所ハ決シテ英國ノ立場ニ非ス又予ハ英國カ予ノ言ハントスル所ニ果シテ同意スルヤ否ヤヲ知ラサルナリ

吾人ノ英國トノ討議ノ一般の範圍ハ次ノ如シ

吾人ハ潛水艦種ニ考慮ヲ加ヘ双方共潛水艦ノ全廢ヲ爲スノ用意ヲ有スルコトヲ明カニシタルカ日本又ハ佛伊カ右ニ同意スルヤニ付疑ヲ感セリ又若シ潛水艦ニシテ全廢セラレストセハ吾人ハ其ノ建造ヲ制限スルノ意圖ヲ有スルコトヲ明カニシ尙

日本カ既成及建造中ノモノヲ合シ五―五―三ノ比率ヨリ恐ラク遙ニ大ナル潛水艦ヲ有スルコトヲ承知セルモ右制限ニ付テハ日本モ同様ノ意嚮ヲ有セラルヘシト期待シタリ

驅逐艦種ノ討議ニ當リ吾人ハ米國カ世界大戰ノ目的ノ爲建造セラレタル多數ノ驅逐艦ヲ有スルコトヲ注意セリ吾人ハ英國ト本艦種ヲ討議シ驅逐艦種ヲ實際上出來得ル限り制限スヘク十五萬噸乃至二十萬噸ノ間ニ於テ右制限ニ關シ意見ヲ交換セリ主力艦ニ關シ米國ハ千九百三十六年ニ於テ五―五―三ノ比率ト爲スニ必要ナル代換以外ニハ何等代換ヲ行ハサルカ又ハ最少限ノ代換ヲ行フニ止ムヘキコトヲ提議シ右ハ多大ノ節約ヲ意味スヘキヲ指摘セリ英國ハ主力艦代換ニ關シ何等最終的主張ヲ爲サザリシカ各國民ハ二萬五千噸程度ノ小型戰鬥艦ニ依リ若干ノ代換ヲ爲スヘシト提議セリ吾人ハ右最後ノ提議ハ吾人ノ海軍ニ關スル歴史の見解ト合致セサルヲ以テ之ニ同意スルノ意ナシ吾人ハ英國ニ右ヲ考慮スヘキコトヲ約シタルモ右ハ「ロンドン」會議迄未解決ノ儘殘サルルモ差支ナキ問題ナリト思惟ス

一層困難ナル巡洋艦問題ノ討議ニ當リテハ吾人ハ英國ヲ説服シ英國カ「ジ・ネーヴ」ニ於テ要求セル隻數及噸數ヨリ少ク且低キモノト吾人ノ考フル點ニテ英國ヲ満足セシメント努力セリ英國ハ遂ニ一九三六年迄ニ毎年二隻宛總計十四隻ノ代換ヲ爲ス計畫ニテ同年ニ於テ約三十四萬噸五十隻（是レ殆ント英國ノ現在勢力ナリ）ノ勢力ヲ以テ満足スヘキコトヲ提議セリ右ハ英國ノ一九三六年ニ於ケル勢力ヲ八吋砲巡洋艦十五隻總噸數十四萬六千噸及小型六吋砲巡洋艦十九萬二千噸（右ノ中多數ハ老齡艦ナリ）ト爲スモノナリ英國艦隊ヲ米國巡洋艦艦隊ニ比較シ英國側ニ老齡艦多ク又劣勢ノ大砲ヲ有スル艦船多キヲ以テ之カ調節ヲ計ル爲共通ノ尺度ヲ作成スル方法ヲ講スヘシトノ提議アリタリ右米國艦隊ハ英國側ノ提議ニ依レハ「オマハ」級（七千噸六吋）十隻、一萬噸八吋級十八隻及小型六吋砲巡洋艦數隻ニシテ右ハ英米ノ巡洋艦勢力ヲ同等ナラシムルモノトシテ吾人カ合意シ得ヘキ條件ノ下ニ英國トノ均勢ヲ成就スルモノナリ然レトモ一方ニ於テ米國海軍顧問ハ米國ハ噸數ニ於ケル不平等ヲ調節スル爲少クトモ二十一隻ノ一萬八吋砲巡洋艦ヲ有セサルヘカラスト信ス此ノ點ニ達シタル時吾人ハ英國トノ間ニ於テハ最早ヤ協定ニ近ツキタルモノニシテ右ノ點ヲ會議迄未決トスルモ安全ナリト信シ且右事情ノ

下ニ同問題ヲ未決ノ儘殘シタリ

(三)

右會議ニ關スル出淵大使所見上申

右國務長官トノ會議ニ關シ出淵大使ハ左ノ通其ノ所見ヲ上申セリ

『去ル八日他用ヲ以テ「コットン」次官ニ會議ノ際同官ハ貴大使ニ渡スヘキ軍縮會議ニ關スル覺書ヲ折角自ラ起草中ナルカ遠カラス回答ノ運ニ至ルヘシト極ク内密ニ洩シタルコトアリタルカ長官ノ今回ノ書面及之ニ關シ長官カ敷衍説明シタル事項ニハ腑ニ落チサル點モアリ不取敢本使限リノ意見トシテ腹藏ナク應酬シタル次第ハ同電申進ノ通ナルカ長官ノ申出ハ要スルニ比率問題ニ關スル我方ノ主張ヲ斥ケ實際的ニ何等カノ解決ヲ計ラムトノ下心ヲ有スルモノト思ハルル處此ノ邊ニ對スル我方ノ主張ヲ明カニスルト共ニ覺書全般ニ互リ明確ナル回答ヲ爲スコト必要ト思考セラル右回答内容ハ「ロンドン」ニ於ケル松平大使ト「マクドナルド」首相及「ドーズ」大使トノ會議ノ際引用セララルコト存スルニ付統一ヲ保ツ爲英文ニテ電報アリタシ

第四項 比率問題ニ關シ重ネテ懇談方訓電

十一月十三日帝國政府ハ日英豫備交渉開始方ニ關シ松平大使宛訓電（第四章第二節第二項訓電）ヲ發スルト共ニ出淵大使ニ對シテモ左ノ通米國政府ニ對シ重ネテ懇談方訓令セリ

『貴官ニ於テモ最近ノ機會ニ於テ國務長官ト面會ノ上比率問題ニ關シ重ネテ懇談ヲ進メラレタク其ノ際在英大使宛訓電ノ内容ヲ適宜取捨ノ上内話セラレ米國當局ニ於テ七割比率ノ我要求ニ對シ好意アル考慮ヲ加ヘラレ居ルコトハ深く多トスル所ナリト雖モ大型巡洋艦ノ保有量日英兩國間ニ著シク接近スル結果英國海外領殊ニ濠洲ニ於テ我國ノ態度ニ關シ何等カノ誤解ヲ抱クカ如キ情勢アルニ顧ミ松平大使ヨリ「マクドナルド」首相ニ對シ海軍協定ノ成功ヲ容易ナラシムルカ爲此種ノ障礙ヲ除去スルコトヲ相談セシムルニ至リタル次第ナルコトヲ説明シ本來我國トシテハ劣勢ノ海軍力ニ満足ス

ルモノニシテ七割比率ノ要求ハ英米ニ對シ何等脅威ヲ與フル性質ノモノニアサルコト明カナリト考フ此點ハ米國官民ニ於テモ充分理解アリ米國輿論カ軍備縮少ニ對スル我誠實ナル態度ヲ能ク了解シテ一般ニ我國ニ對シ友誼的論調ナルヲ見ルハ米國政府當局ノ指導ニ負フ所多キハ勿論ナルモ同時ニ近年日米兩國民間ニ著シク相互ノ了解ヲ進メ親善ヲ厚クシ來リタル結果ト云フヘク慶賀ニ堪ヘサル次第ナルカ今同ノ海軍協定ノ成否ハ此ノ親善關係ニ重大ナル影響ヲ及ボスモノナルニ付兩國民間ニ疑惑危惧ノ念ヲ抱カシムルカ如キ禍根ヲ貽サス之ヲ絶滅シテ將來長ク日米間和親協同ノ基礎ヲ築ク様此ノ上トモ盡力セラレンコトヲ希望スル旨ヲ述ヘ之ニ對スル長官ノ應答振電報アリ度シ

(日米調停條約及仲裁裁判條約)ニ付テハ未タ商議ヲ進ムル運ヒニ至リ居ラサル處右ハ専門的の見地ヨリ研究ヲ要スル點アリシカ爲事務的ニ遲延シ居ルモノニテ主義トシテ此等條約ノ締結ニ異議アル次第ニアラス御含迄」

(註) 昭和二年十二月三十一日米國政府ヨリ不戰條約締結方ト共ニ本件改訂ニ關スル提議アリ

第五項 比率問題ニ關スル出淵大使「ウィルソン」公使會談

「ワシントン」會議前後ヲ通シ大使館參事官トシテ本邦ニ在勤シ次テ國務省情報部長ニ轉シタル在瑞西米國公使「ヒュー、ウィルソン」十一月十八日午前出淵大使ヲ來訪セルニ付大使ヨリ「貴公使ハ「ロンドン」會議ニ於ケル米國全權隨員タルヘキ旨聞及ヒ密ニ喜ビ居ル次第ナルカ右ハ事實ナリヤ」ト尋ネタルニ「ウィルソン」公使ハ「自分カ顧問ノ一人タルコトハ國務長官限リニテ内定シ居レルカ明後二十日當地出發一應歸任スヘキニ付本日午後長官ト會見スルコトナリ居レリ」ト答ヘタリ依テ大使ハ比率問題ニ關スル長官トノ會談ノ要旨ヲ告ケ日本ノ主張ノ存スル處ヲ了解セシムルト共ニ我方七割要求ハ從來ノ態度ヲ變スルモノトノ考ノ誤レルコトヲモ指摘シ且公使ノ關係シタル「ジュネーヴ」會議ニ於テモ日本側ハ熱心ニ七割ヲ主張シタル次第ヲ述ヘタル處公使ハ日本側ニ七割ヲ認メルコトハ相當困難ナル問題ナルカ實際上ノ狀態ニ基キ考慮ヲ廻ラセハ何トカ解決ノ途アルヘキ旨繰返シ述ヘタリ

右會議ノ際公使ハ自分一己ノ氣付トシテ「過般來日本ヨリ海軍當局談又ハ新聞報(後記參考軍縮關係米國新聞報參照)ト

シテ頻リニ七割要求ニ關スル報道ヲ傳ヘラレ居ル處此ノ調子ニテ進マハ米國新聞モ此ノ報道アル毎ニ一々取上ケテ議論スルニ至ルヘキノミナラス其ノ間米國海軍軍人中ニモ新聞ヲ使嘆スルモノ生セントモ限ラス結果兩國新聞カ議論ヲ交ヘ往々ニ輿論ヲ刺戟スルカ如キ狀態ニ立至ルコトナキヲ保セス元來日本政府及國民ニ於テ七割ヲ要求スルコトハ米國側ノ十二分ニ承知セル所ナルノミナラス自分ノ經驗ニ徴スルモ新聞ノ論戰カ國際商議ノ圓滿ナル進行ヲ妨ケタルコト多々アルニ顧ミ會議ニ先立チ此際兩國新聞カ角立タル議論ヲ交フルカ如キ事態ニ立至ラサル様希望ニ堪ヘス」ト語レリ

(參考) 比率ニ關スル我要求ニ關係アル米國新聞論評及報道中主ナルモノ左ノ如シ

一、八月六日「ニューヨーク、アメリカン」ハ英米カ軍艦建造ヲ中止シ平和的態度ヲ示セルニ對シ日本ハ新聞紙上ニテハ米國大統領及「マクドナルド」首相ヲ稱賛シナカラ觀望ノ態度ヲ取リ八隻ノ建造計畫ヲ續ケ來レルカ右ハ賢明ナリトノ皮肉ナル論評ヲ掲ケ又日本海軍當局カ一萬噸巡洋艦四隻其他ノ新計畫ヲ提出セリトノ報道ニ關聯シ九月三日ノ「ワシントン、ポスト」ハ日本ノ政治家ハ軍縮ニ關スル米國大統領ノ言論及「マクドナルド」首相ノ考ニ同意シ居リ又日本政府ハ軍縮會議ニハ必ス出席シ「ジュネーヴ」會議ノ際ニハ英米間ニ同意成立セサリシヲ迷惑トセシ程ナル處次ノ會議ノ招請ヲ待チ居ル間ニ日本ハ一萬噸巡洋艦四隻其他ノ新計畫ヲ發表シタリト述ヘ日米間ノ現有海軍勢力ヲ比較シタル後日本政治家ハ海軍軍縮ヲ文明開化ノ象徵ト認メ居ルモ同時ニ軍縮ヨリ生スル利益ヲ自己ノ手ニ收ムル爲利己主義ト見ラレン事ヲ望マス

トノ揶揄的論評ヲ加ヘタリ

二、十一月十四日ノ夕刊及十五日ノ朝刊各新聞ハ十四日東京發A、P、電報トシテ大型巡洋艦ニ關スル日本ノ對米七割要求ハ英米兩國側ニ於テ受諾ヲ困難トシ居レル趣其ノ筋ヨリ聞込ミタルカ英米トノ最近ノ交渉ニ付テハ外務省側ニテ秘密ニ附シ居ルモ十四日ノ夕刊ハ前記趣旨ノ報道ヲ掲ケ居レリト報シ又十五日ノ「ニューヨーク、タイムズ」ハ十四日附東京特電トシテ松平大使ノ報告ニ依レハ「マクドナルド」首相ハ日本

側ノ大型艦ニ關スル對米七割要求及日本カ更ニ建造スルコトナクシテ米ノ七割ニ達スル様英米ニ於テ同型艦削減方希望ニ同意スルコトヲ何レモ拒絕シタル趣並右ニ關シ財部海相ハ日本ノ大型艦對米七割要求ハ國防上最少限度ニシテ英國ノ態度強硬ナリトモ我方方針ハ之ヲ變更スルコトヲ得ス凡ソ商議ヲ爲ス場合ニハ一方ノ當事者ノミヲ全然満足セシムル様物事ハ運フモノト期待スヘキニ非サルカ協議ヲ續クル内ニハ日本政府ノ誠意ハ一層良ク諒解セラルヘシト語り尙主力艦代艦及其ノ搭載砲口徑制限ニ關シ日本ハ具體的案ヲ準備中ナリト述ヘタル旨報シタリ

三、右ニ關シ「ニューヨーク、タイムズ」「ワシントン」通信ハ國務省側ニテモ長官不在ナル爲何等批評ヲ下スコトヲ避ケ居ルカ米國海軍側ニテハ戰略上ノ理由ヨリ大型艦ニ關スル日本對米七割要求ハ反對シ居ルモ主ナル反對ハ「オーストラリア」及「ニュー、ジブラント」ノ態度ヲ顧慮セル英本國ヨリ來レルモノト了解セラル日本カ假リニ米二十一隻ニ對スル七割ヲ保有スルトセハ英國ト同量トナリ從テ英國ハ「オーストラリア」及「ニュー、ジブラント」ノ主張ニ依リ其ノ保有量ノ増加ヲ要求スヘク其ノ結果米國モ亦均勢維持ノ爲更ニ多數ノ隻數ヲ要求スル事トナリ結局議論ハ循環スルノミニテ會議ニ災スルコト大ナルヘシ若シ一萬噸型艦ニ付日本保有量ヲ米ノ六割トセハ十二隻乃至十三隻トナリ英ノ七割トセハ十隻乃至十一隻トナルヘキ處日本カ巡洋艦總噸數ニ付六割ヨリ少シ以上ヲ要求セハ重大ナル反對ナカルヘシト信セラル右ノ建前ニテ尺度ニ依リ總體的勢力ヲ算定セハ米三十一萬五千噸英三十三萬九千噸ニ比シ日本ハ恐ラク二十一萬乃至二十四萬噸ナルヘシ要スルニ米國側ノ主張ハ英米十二對シ日本ハ六ニ幾分近キ割合ナル様艦型要素ヲ考慮ニ入レタル廣キ基礎ニ於テ巡洋艦勢力ヲ算定スヘキモノナリト云フニアリテ比率ハ巡洋艦全體ニ適用セラルモノニシテ同艦種中ノ各艦型ニ付別々ニ適用スル様更ニ區分セラレサルモノナリトセハ問題ハ解決スルヲ得ヘシト述ヘタリ尙十五日ノ「ニューヨーク、ワールド」掲載「ロンドン」特電ハ「マクドナル

ド」首相ト松平大使トノ會談ニ於テ一萬噸型艦ニ付日本ヲ英國ニ對スル七割トスルコトニ同意シタル旨ヲ報セリ

四、十五日東京發A、P、電報トシテ公式ニハ何等批評ヲ下ササルモ官邊ニテハ日本ト英米トノ間ノ下相談ハ危險ナル狀態ニ達シタリト爲シ居レリ公私各方面ニ就キ聞キ得タル所ニ依レハ比率ニ關スル豫備的諒解ヲ得ル見込減シタル爲「ロンドン」會議ニ對スル日本ノ熱心ハ下火トナリツツアルモノト信スヘキ理由アリ官邊以外ノ一各方面ニハ悲觀論ヲ唱ヘ日本ハ會議ヨリ脱退スルヤモ知レストノ見解ヲ示ス向アルモ政府筋ニテハ右脱退說ヲ否認シ居レル旨十五日ノ夕刊及十六日ノ朝刊新聞ニ掲ケラレタリ

五、十六日ノ「ニューヨーク、タイムズ」掲載「ワシントン」通信ノ報スル所ニ依レハ

(イ) 國務次官「コットン」氏ハ日本ト英米トノ間ノ下相談ニ於テ巡洋艦問題ニ關シ停頓ニ陥レル旨東京ヨリ報セラルルモ米國政府ハ右困難ハ解決セラレ會議ハ成功スヘシトノ確信ノ下ニ進ミ居レル旨ヲ明カニシ若シ關係五國全部ヲ含ム海軍協定成立セサル場合ニハ米國代表ハ歸國スルノ外ナシト言明シタル趣ナリ(「ニューヨーク、ワールド」其他ノ新聞モ同趣旨ヲ報セリ)

(ロ) 米國ニテハ會議ノ成功ニ對スル重大ナル妨害アリトセハ右ハ佛伊側ヨリ生スルモノト信セラレタル處今回ノ東京ヨリノ報道ハ多少意外トセラレ居ルカ會議開催迄ニハ何トカ處理セラルヘシト信セラレ

(ハ) 米國官憲ハ日本側トノ交渉ニ際シ比律賓ヲ防禦スル戰略上ノ困難ヲ理由トシテ日本海軍ノ如何ナル艦種ニ對シテモ六割ヲ著シク越ユル比率ヲ認ムル能ハストノ海軍側ノ態度ヲ反映シタルコトアリトノコトナルモ右ノ見解カ何レノ邊迄強ク主張セラレタルヤハ明カナラス而カモ其ノ重要性ハ巡洋艦ニ關スル限リハ「オーストラリア」及「ニュー、ジブラント」ノ態度ノ爲ニ影ヲ隱ス形ナリ

(ニ) 新嘉坡軍港工事ヲ永久ニ停止スルコト本件停頓ヲ解決スル一策ナルヘシト一部外交官ノ間ニ取沙汰セ

ラル

六、十七日ノ「フイラデルフィヤ、レジャー」論說ハ日本ハ大型巡洋艦ニ付七割ヲ國防上最少限度ノ要求ナリトセル處右要求ハ理論上ハ尤モナルモ日本側ニ米國ノ七割ヲ與フルニ於テハ日英ノ勢力ハ略均等トナリ英自治領ヨリ強硬ナル反對ヲ生スヘキ處右自治領ノ態度モ亦尤モナリ從テ本件ハ實際上ノ問題トシテ考慮ヲ加フヘキモノナルカ日本カ實際上ノ考慮ニ基キ合理的態度ヲ執ルニ於テハ英米共ニ日本ニ對シ或程度ノ比率増加ヲ認ムル事ニハ同意スヘシトノ趣旨ヲ述ヘタリ

七、(四)記載「コットン」氏ノ聲明ニ關シ十七日ノ「ニューヨーク、ヘラルド、トリビューン」ハ若シ佛伊ノ加入セサル場合ニ日英米間ニ協定ヲ結ブ事ヲ得ヘク三國協定ハ多少ノ缺點アルヲ免レサルモ尙協定無キニ勝ル「コットン」氏ノ言ノ如ク此際五國協定不成立ノ場合全權ハ歸國スルノ外無シト述フルハ適當ナラスト論セリ

八、尙前記言明ニ關シ「コットン」氏ハ右言明ハ米國側ニ於テ五國會議ニ參加セントスルモノナリトノ意味ヲ述ヘタルノミニテ五國會議不成立ノ場合ノ如キ假定的ノ場合ニ付テハ何等言明シ得サル譯ナリト述ヘタル趣十七日ノ「ニューヨーク、タイムズ」「ワシントン」通信ニ報セラレタリ

九、二十一日ノ「ニューヨーク、タイムズ」論說ハ日本ハ巡洋艦ニ付主力艦ニ對スルヨリモ高キ比率ヲ要求シ居ルトハ言ヘ總噸數ノ最高限度ヲ出來得ル限り低下センコトヲ要求スル方針ナル處日本カ小海軍ヲ主張スルニハ充分ノ理由アリトテ「ワシントン」會議以後極東ニ於テハ外國ヨリ侵略ヲ受クル危險無キニ至リタルコト並日本ノ財政經濟上ノ理由ニ鑑ミ陸海軍ヲ縮少スルノ必要ニ迫ラレ居ル次第ヲ述ヘ軍備擴張ヲ招クコトハ日本ノ贊成セサル處ナレハ七割要求ニ付テ最後ニハ何トカ妥協ノ途講セラルコトアリ得ヘシ要スルニ日本ハ大統領カ休戰記念日ニ際シ述ヘタル通他ノ國カ噸數ヲ低下スルニ於テハ吾人ハ如何ニ之ヲ低ク

スルモ低キニ過クトハセストノ主義ニ賛成スルニ相違無シト論セリ

十、「ニューヨーク、タイムズ」二十三日附東京特電ハ官邊ノ説明ニ依レハ日本ハ補助艦總括的七割ヲ要求スルモノナルカ右ハ大型巡洋艦ニ付テハ七割潜水艦ニ付テハ均等ヲ主張スルモ小型巡洋艦及驅逐艦ニ付テハ五割位ヲ受諾スヘシトノ意味ナル趣ナルカ右説明ニ徴スルモ日本カ大型艦ニ關シ米國ニ對スル割合ヲ最モ懸念シ居ルコト明カナリト報シタリ

十一、二十三日「ニューヨーク、タイムズ」掲載「ワシントン」通信ハ米國官憲ニハ日本ノ七割要求カ「ロンドン」會議前ニ調整セラルルニ非サレハ會議ニ於テ最モ重大ナル問題トナルヘシトノ觀察ヲ下ス尙有ルカ英米側ニテハ日本ヲシテ會議ニ於テ七割ニ増率スルコトノ正當ナル所以ヲ立證セシムルコトトナルヘシト報シ尙日本ハ一萬噸型七割ヲ得同時ニ巡洋艦全體ニ付七割ヲ超過セサル樣進ンテ老齡巡洋艦ヲ廢棄スルニ至ルモ別段意外ニハ非スト述ヘ同日ノ「ニューヨーク、ヘラルド、トリビューン」「ワシントン」通信ハ「ロンドン」會議ニ於テハ比率變更ニ關スル一般的要求カ全然持出サレサルコトハ英米側ノ切望スル處ナルカ會議ニ於テハ主力艦ニ就テモ議セラルヘキニ付或ハ日本ハ主力艦ニ就テモ七割ノ増率ヲ要求シ來ルヤモ知レス萬一主力艦比率増加ノ如キ問題生スル場合ニハ軍縮ヲ目的トスル會議ハ其ノ使命ヲ失フコトトナルヘシト報シタリ

十二、二十六日東京發ハ、P、電報及「ニューヨーク、タイムズ」特電ハ「ロンドン」會議ニ對スル日本政府ノ方針ハ二十六日御裁可ヲ經タルカ諸新聞ノ報道ニ依レハ内容ハ

(イ) 海軍軍備ノ削減ヲ期スルコト

(ロ) 補助艦七割就中大型八吋砲艦ニ付七割及

(ハ) 潜水艦ニ付テハ八萬噸程度ヲ基礎トシテ英米ト均勢ヲ主張スルモノニシテ右大型艦及潜水艦ニ關スル

要求容レラルルニ於テハ小巡洋艦及驅逐艦ニ付七割以下ヲ受諾スヘク

(ニ) 主力艦ヲ二萬五千噸十四吋

(ホ) 航空母艦ヲ一萬五千噸乃至二萬噸ニ各々制限シ

(ヘ) 潜水艦ノ最大噸數ヲ二千噸トシ六百噸以下ヲ制限外ニ置クコト

(ト) 艦齡ハ主力艦二十五年驅逐艦十六年潜水艦十三年トセントスルモノナリト報ス

十三、右ニ關シ諸新聞掲載ハ、P 通信ハ日本ノ削減方要求ハ米國識者ノ歡迎スル所ナルモ其他ノ點ニ付テハ反響區々ニシテ米國海軍側ニ於テハ日本ハ「ジュネーヴ」會議ニ於テハ潜水艦ハ七萬噸ヲ要求シ一萬噸八吋砲艦ニ付テハ千九百三十六年迄建造セサル旨ヲ明カニシタルモノニシテ今日ノ主張ハ當時ノ要求ト異レル事ヲ指摘セリ又總括的七割ノ要求ニ關シ日本ハ「ジュネーヴ」會議當時ハ約六割五分ヲ要求セルモノナルカ米國側ニ於テハ右七割要求ニ付考究ヲ爲スヘキモ何ノ途八吋砲艦及二千噸級ノ潜水艦ハ之ヲ攻撃的ノモノト認メ居ルコトハ明カナリ尙艦齡延長ノ問題ニ付テハ各國ノ同意アラハ米國側モ之ニ賛成スヘキ意嚮ナリ要スルニ一般ハ日本ノ要求ハ米國ヨリ寧ロ英國ニトリ重大ナリトノ印象ヲ有シ居ルカ日米ニ關スル限リハ日本全權「ワシントン」立寄ノ際米國全權トノ間ニ本問題全部ニ亘リ相談ヲ要スルモノト認メラレ居リト報セリ

第六項 米國政府ノ態度ニ關スル「ドーズ」大使内話

「ドーズ」大使歸任セルヲ以テ十一月十八日松平大使ハ同大使ト會見シテ過日「マクドナルド」首相ト會見セル趣(本章第二節第一項(二)參照)ヲ話シ我要求ニ對スル米國政府部内ノ空氣ヲ尋ネタル處「ドーズ」大使ハ「ワシントン」ニ於テ「ネーヴィー、ボード」ヨリ種々専門的見地ヨリ面倒ノ事ヲ持出し世論ヲ刺戟スル如キ狀態アリ實ハ全ク自分一己ノ思付且極秘ノ話ナルカ米國政府ノ態度(國務長官非公式ノ覺書)ハ變更セラルル事アルヘシ但シ自分ハ國務長官ニモ意見ヲ述ヘ

置キタルカ此際七割ノ如キ比率ヲ強テ主張スル事ハ徒ニ米國海軍及輿論ヲ刺戟シ同時ニ日本側ノ輿論モ刺戟セラレ米國側態度モ却テ變更ヲ困難ナラシムル惧アリ自分ハ豫テ申シタル如ク日本ノ比率ニ關スル希望ニハ好意ヲ有シ居レリ併シ會議前ニ焦ツテ突止メントスレハ米國人ノ癖トシテ反動ヲ起シ却テ日本ニ不利トナルヘキニ付自分ハ切ニ日本ノ友人トシテ勸告スル事ハ日本側ニ於テ此際七割ノ比率ヲ以テ「ブレース」セス寧ロ所要ノ額ヲ以テ調節ヲ計ラレン事ニアリ例ヘハ米ノ十八、英ノ十五、日本ノ十二と言フ如キ事トナレハ潜水艦ノ「バリテ」等ノ割合ヨリ見テ結局事實ニ於テハ七割位ニ上ルヘク而シテ米國側ニ於テモ斯ノ如キ方法ニ依リテ決定スル事ハ困難ナラスト思ハル旨述ヘタルニ付松平大使ハ右好意ヲ謝スト共ニ「本使一個トシテハ右ノ事情ヲ諒トスルモ日本側ニ於テハ「ワシントン」會議ノ際米國側ニ於テ總テ決定的案ヲ提出シテ之ヲ採ルカ或ハ會議ノ決裂ヲ見ルカト云フ如キ狀況ヲ今回ノ會議ニ見サラン事ヲ望ムト同時ニ米國側ニ於テモ英國ニ對シ「バリテ」ノ原則ヲ先ツ會議ニ入ル前提トシテ確認ヲ求メタル事モアリ日本ニ於テモ會議ノ圓滿成功ヲ切望スル爲メノ「バリテ」ト同シク重要視シ居ル原則ヲ豫メ英米側ニ於テ同意セラレムコトヲ希望シ居ル次第ナリ勿論此際無用ニ輿論ノ刺戟又ハ妨害ヲ惹起スルカ如キハ望ム所ニアラス左リトテ何等ノ保障モナク會議ニ臨ムコトハ避ケタキ趣意ニ外ナラス勿論七割ノ比率ヲ唱ヘサルモ事實ニ於テ日本ノ要求カ達セラルルコト確カナルニ於テハ敢テ比率ヲ論議セサルモ差支ナシト思フカ此ノ點ハ政府ノ意嚮ヲ確カムヘシ」ト述ヘタリ尙松平大使ハ「全ク「アントル、ヌー」ノ話ナルカ米國海軍ノ代表某提督ノ如キハ五—三ノ比率ニアラサレハ極東ニ於ケル日本ノ勢力均衡ヲ得スト言ヘル趣ナルカ自分ハ斯ノ如キ感ハ全ク誤レリト思考ス日本ハ英米トノ間ニハ劣勢ヲ以テ甘シスルヲ以テ何等英米沿岸ヲ侵スカ如キ虞ナキハ明カナリ然シ極東ノ海面ニ於テハ日本カ他國ニ比シ優秀ノ勢力ヲ有スヘキコトハ當然ノコトト思フ何トナレハ日本ニトリテハ國自體ノ死活ノ問題ナルニ反シ米國ニトリテハ僅ニ比律賓ノ如キ小島ノ利害關係ニ關スルノミニテ何等本國ノ死活ニ關スル問題ニアラス」ト云ヘル處「ドーズ」大使モ「其ノ點ハ御尤モ千萬ナリ然シ今回ハ「ジョーンズ」ノ如キハ代表トシテ來ラサル故安心ナリ」ト言ヘリ

「ドーズ」大使ハ同十八日朝「マクドナルド」首相トモ會談シ右松平大使ニ話シタルコトヲ首相ニモ話シタル處首相モ同意ヲ表シタル旨及首相ハ其ノ節東京方面ニテ過日松平大使トノ話洩レタル爲各方面ヨリ種々本件ニ關シテ申込マレ當惑シ居タル模様ナル旨ヲ述ヘ「尙英米トノ間ニ於テハ多分米ノ大型巡洋艦ヲ十八隻迄下クルコトヲ得ヘシト信ス但シ本件及米國政府態度變更スヘシトノコトハ未タ政府ニ報告セラレサラムコトヲ望ム」ト述ヘ漏洩ヲ虞レ居リタリ（本章第二節第四項參照）

第七項 「スチムスン」國務長官覺書ニ對スル帝國政府訓令及國務長官出淵大使會談

（一）訓令

第三項記載比率問題ニ關スル國務長官覺書ニ對シ帝國政府ハ十一月二十八日左ノ通出淵大使ニ訓電セリ

「（一）國務長官ニ對スル貴官ノ說明ハ大體我方ノ意嚮ヲ盡シ居リ且意見ヲ文書ニ認ムルコトハ双方ノ態度ヲ窮屈ニシ論議ヲ硬化セシムル虞アルニ付此際同長官覺書ニ對シ書面ヲ以テ回答スルコトハ之ヲ避ケ次回會談ノ節ニハ左ノ各項ノ趣旨御合ノ上可然應酬セラレ度シ

（二）覺書ニ引用セル加藤全權ノ陳述ハ貴官ヨリ說明ノ通帝國政府ノ態度ヲ一般的ニ表明シタル主義上ノ聲明ニテ保有噸數及比率等ノ問題ニ關スル具體的意見ヲ表示シタルモノニ非サルコトハ一讀シテ明ナリ
元來華府會議當初ニ於ケル米國提案ニハ補助艦協定ヲ含ミタルモノナルカ同問題ニ付テハ會議參加國間ニ意見ノ調和ヲ圖ルコト到底不可能ナル情勢ナリシ爲主力艦問題ニ力ヲ傾注スルコトナリタル結果補助艦ニ關シテハ殆ント討議ヲ行フ運ヒニモ至ラスシテ協定不成立ニ終リタルモノナルカ故ニ今日ニ至リ華府會議當時ノ論議ヲ穿鑿スルモ格別有益ナル結果ヲ齎スヘシトモ思ハレス來ルヘキ倫敦會議ハ右華府會議ノ失敗ニ顧ミ過去ノ行懸リヲ離レ全然新シキ見地ヨリ補助艦問題ニ付協定ヲ行ハントスルモノナルカ故ニ比率ニ關スル我要求ニ對シテモ米國側ニ於テ徒ラニ過去ノ行懸リニ捉ハルルコトナク新シキ見地ヨリ之ヲ考量センコトヲ希望ス

（三）我國トシテ比率ニ重キヲ置ク所以及差當リ巡洋艦全體ニ對スル具體案トシテ數字ヲ示スコト不可能ナル事情ハ在英大使宛往電（本章第二節第四項（一）參照）ニテ了知アリタシ

（四）我方ニ於テモ一方比率ノ主張ハ飽ク迄之ヲ維持スルト同時ニ他方實際的事情ニ依ル解決方法ニ付攻究スルハ必スシモ無用ニ非スト認メ「ロンドン」ニ於ケル「マクドナルド」首相トノ非公式會談ニテ先ツ八時砲巡洋艦ニ關シ具體案ニ依ル意見交換方在英松平大使ニ電訓シタル趣長官ニ内話シ右非公式會談ノ模様ハ松平大使ヨリ逐一「ドーズ」大使ニ通報スヘク又「ドーズ」大使トモ同様ノ會談ヲ行フ次第ナルニ付「ロンドン」「ワシントン」兩地ニテ同時ニ具體的協議ヲ進メ混亂ヲ來タスカ如キコトナキ様暫ク「ロンドン」ニ於ケル會談ノ進捗ヲ待ツコトトシ度旨懇談シ置カレ度シ

（五）英米假協定ニ據レハ驅逐艦保有量ハ英米各十五萬噸乃至二十萬噸トナリ居ル處我方ノ見ル所ニテハ更ニ之ヲ低下スルニ非サレハ全般ニ於テ軍備擴張ノ結果トナル危險多大ナリト認メラル

（六）潛水艦ニ付質問アル場合ニハ我海軍トシテハ十萬噸ヲ目標トシテ計畫ヲ進メ來リタルモノナルカ協定ノ成立ヲ阻礙センコトヲ避ケムカ爲漸ク八萬噸ニ切り下ケタル實情ナル旨内話シ且潛水艦ハ弱者ノ武器トシテ特ニ我方ノ重キヲ置ク所ニシテ比率ニ關係ナク右保有量ヲ要求スルモノナルカ敢テ英米トノ均勢ヲ主張スルモノニアラサルカ故ニ英米ニ於テ我保有量ヲ超過セル噸數ヲ要求スルコトニ對シテハ我國ニ於テ何等異存ナキモノナル旨ヲ說明シ置カレタク其機會ニ於テ參考トシテ本問題ニ關スル佛伊ノ態度ヲ質シ置カレ度シ

（二）右ニ關スル「スチムスン」國務長官出淵大使會談

右訓令ニ接シ出淵大使ハ十二月二日國務長官ニ會見一時間餘ニ互リ左ノ通懇談ヲ遂ケタリ

（一）先ツ大使ヨリ「十一月十二日貴長官ヨリ手交セラレタル覺書内容及當日會談ノ次第ハ早速本國政府ニ電報シ置キタル處右ニ對シ今般回訓ニ接シタルカ政府ハ右會談ノ際本使限リノ腹藏ナキ意見トシテ申上ケタル事項ニ對シ大體承認

ヲ與フルト共ニ特ニ次ノ二點ニ付長官ノ注意ヲ喚起スヘキ旨申越セリ』ト前置シ前記訓電中(二)ノ要旨ヲ述ヘタル處長官ハ大使ノ提言ヲ熱心ニ聞キタル上『ワシントン』會議當時補助艦ノ比率ニ關シ何等協定ヲ見ルニ至ラザリシコトハ成程貴說ノ通ナルヘシ自分カ態度變更ナル言葉ヲ用ヒタルハ或ハ實際ニ當ラサルヤモ知レサルニ付此ノ點ハ訂正スヘキカ只茲ニ特ニ御諒解願ヒタキハ『ワシントン』會議ニ於テ主力艦ニ關スル五—五—三ノ協定成立シタル事實ニ鑑ミ今回補助艦ニ關シ夫レヨリ大ナル比率ヲ定ムルコトハ米國國論ノ容易ニ容認シ得サルヘキコトナリ』ト述ヘタルニ付之ニ對シ大使ヨリ『先般來屢々御話シタル通七割ノ主張ハ實際ノ必要ニ基キ且日本國論ノ一致セル所ナルニ付是非トモ貴國側ノ同情アル考慮ヲ求メサルヲ得ス尤モ日本政府トシテハ右主張ハ飽ク迄之ヲ支持スル建前ノ下ニ貴長官カ過日覺書中ニ述ヘラレタル實際ノ事情ニ基キ意見ノ交換ヲ試ミルコトニ付テハ素ヨリ異存ナキ所ナリ』ト述ヘタルニ長官ハ『日本側ニ於テ右ノ如キ意見ノ交換ノ有益ナルコトヲ認メラレタルコトハ自分ノ深ク満足トスル處ナリ』ト述ヘタル後『御話ノ途中別問題ニ移ル嫌アルヤモ計リ難キモ「ロンドン」會議ニ對スル根本方針ニ付卑見ヲ述ヘ幣原男ヲ御同意ヲ得タキコトアリ』トテ次ノ如ク語レリ

(二) 『ワシントン』會議當時米國政府ノ執リタル態度カ果シテ適當ナリシヤ否ヤハ今日批評スルコトヲ欲セサルモ當時米國政府ハ關係各國ノ海軍縮少ニ關シ一定ノ案ヲ携ヘテ會議ニ臨ミタル爲關係各國ヨリ恰モ米國ハ自己ノ成案ヲ押ケムトスルモノナリトノ誤解ヲ受ケ又米國自身トシテハ同會議ノ結果最多クノ犧牲ヲ拂フノ己ムヲ得サルニ至リタル事情ニ顧ミ今回ハ『ワシントン』會議ト全ク行方ヲ變ヘ會議ノ劈頭公開ノ席上ニテ各國全權ヨリ軍縮問題ニ關スル各自ノ理想ヲ述ヘ引續キ秘密會ニ於テ各國夫々其ノ希望スル所ヲ陳述シ互ニ胸襟ヲ開キ所見ヲ交換シ大體ノ協定ニ達スル見込付キタル場合ニ適宜會議ヲ公開シテ其ノ結果ヲ世上ニ知ラシムルカ如キ仕組トシ始メヨリ議論ニ花ヲ咲カセ新聞記者ニ材料ヲ與フルカ如キコトナラサル様致シタク右ニ關シテハ何レ關係各國トモ追々相談致スヘキカ先ツ以テ日本政府ノ贊同ヲ得タシ』ト切言セリ

右ニ對シ大使ヨリ『御話シノ次第ハ幣原大臣ニ於テモ同感ナルヘシト思考スルモ兎モ角早速電報ノ上何分ノ儀改メテ御返事スヘシ』ト述ヘタリ

(三) 次ニ大使ヨリ『補助艦ト比率問題トノ關係ニ付先刻日本政府ノ所見ヲ申上ケタルカ要スルニ日本トシテハ今日ニ於テモ『ワシントン』會議ノ際トハ事情變化シ居リ今更既往ノ行懸リニ付論議ヲ重スルモ詮ナカルヘシトノ意見ニテ專ラ新ナル事態ヨリシテ協定ニ達セントスル趣意ナリ而シテ前述ノ如ク飽ク迄モ七割ノ比率ヲ支持スルハ勿論ノ次第ナルカ實際ノ事情ニ基キ討議ヲ進ムルコトモ一ノ方法ト認メタル次第ニテ先ツ松平大使ヲシテ「マクドナルド」首相トノ間ニ不取敢八時砲巡洋艦ニ付談合ヲ爲サシムルコトニ決シ同大使ハ既ニ首相ト一應ノ會談ヲ爲シ其ノ結果逐一「ドーズ」大使ニ御話ヲ致シタル筈ナレハ既ニ「ドーズ」大使ヨリ報告ニ接セラレタルナラン』ト述ヘタルニ長官ハ『確ニ「ドーズ」大使ヨリ報告ニ接シ居レリ尤モ未タ篤ト研究ヲ遂ケ居ラサルモ右松平大使所述ノ貴國政府ノ希望諸項ハ米國ニトリテモ同意ヲ困難トスル所ナルカ英國政府トシテハ最モ困難ヲ感スヘシ』トノ意嚮ヲ洩ラシ

(四) 右ノ機會ニ前記訓電中ノ(四)及十一月二十九日「ドーズ」大使トノ會談ニ關スル松平大使發電報(本章第一節第八項參照)末段ノ次第モアリタルニ付大使ヨリ長官ニ對シ『此際實際ノ事情ニ基キ意見交換ヲ「ワシントン」及「ロンドン」ニテ行フハ混亂ヲ來ス虞アルニ付「ドーズ」大使ニ就キ同大使ニ於テ松平大使ヨリ聞込マレタルコトハ一々詳細「ワシントン」ニ報告スル一方松平大使ト隨時意見ノ交換ヲ行ヒ「ロンドン」ニ於テ日英米三國間ノ談合進行ヲ促進スルコト適當ナラスヤト思ハル』ト述ヘタルニ長官ハ『松平大使ト「ドーズ」大使ノ間極メテ隔意ナク談合行ハレ居ルコトハ自分ノ頗ル満足ニ思フ所ナルカ實ハ「ドーズ」大使ハ英米間ノ談合ニ關スル方針ハ能ク心得居ルモ日本其他ノ國トノ關係ニ付テハ未タ深ク承知スル所ナシ又今日ノ時期ニ於テ日米關係ニ關シ一々「ドーズ」ヲ指圖スルコトモ種々ナル事情ヨリ不便ナリ貴見ノ次第ハ一應尤モナルモ暫ク熟考ノ時日ヲ與ヘラレ度シ』ト述ヘタリ

(五) 次ニ大使ヨリ『實際ノ事情ニ基キ意見交換ニ付日本政府ニ於テ別段異存ナキ次第ハ前ニ申上ケタル通ナルカ英米兩

國間ノ談合カ的確ナル具體的協定ニ達シ居ラサル現狀ニ於テハ日本側トシテモ一定ノ具體案ヲ提示スルコト困難ナル次第ニシテ松平大使ノ「マクドナルド」首相ニ申出タルコトモ實ハ假ニ米國ニテ大型十八隻ニ同意スルモノト看做シ口ヲ切りタル迄ナル次第ニ付其ノ邊誤解ナキヲ希望ス將又貴長官ニ於テ實際ノ事情ニ基ク意見交換ヲ主張セラルル以上日米間ノ具體的解決案ヲ有セラルルカト察セラルル處右ニ付長官限リノ御意見ヲ承ルヲ得ヘキヤ」ト述ヘタルニ長官ハ暫ク考ヘシ後『日本側ニテハ米國保有ノ大型巡洋艦ニ對スル七割ノ比率ト補助艦全體ニ對スル七割ノ主張ト何レニ重キヲ置カルルヤ』ト尋ネ

大使ヨリ『兩者共ニ重キヲ置ク點ニ於テ毫モ異ナル點無シ』ト答ヘタルニ長官ハ『兎ニ角尙篤ト考慮ヲ廻ラシタキニ付右ニ對スル意見ノ開陳ハ今少シ待タレタシ』ト述ヘタリ

(六) 次テ大使ヨリ各艦種ニ言及シ『主力艦ノ問題ニ付テハ先日御話ノ次第東京ニ電報シ置キタルモ折角考究中ト見エ今以テ何等回訓ニ接セス又潛水艦ニ關シ日本ハ八萬噸ノ「バリテ」ヲ主張スル考ナル旨過日來新聞紙ニ傳ヘラレ相當世人ノ注意ヲ喚起シ居ル如キモ日本政府ニ於テハ八萬噸ヲ必要ト思考シ居ルノミニテ決シテ「バリテ」ヲ主張スルモノニ非サルニ付其ノ點誤解ナキ様願度シ』ト述ヘタルニ長官ハ『米國ノ現在保有量ハ約七萬五千噸ニ過キササルヲ以テ八萬噸ヲ主張セラルルコトハ甚タ米國ノ意外トスル處ナリ』ト述ヘタリ次テ大使ヨリ『英米側ノ驅逐艦保有量十五萬噸乃至二十萬噸ハ日本側ニ於テ多キニ失スルモノト認メ居ル』旨ヲ告ケタルニ長官ハ『自分トシテハ驅逐艦問題ハ更ニ重キヲ置カス他日充分相談ノ餘地アルヘシ』ト語レリ

(七) 最後ニ大使ハ前記十一月十三日訓令(本章第一節第四項參照)ノ要旨ヲ述ヘ『日本ニ對スル米國ノ輿論概シテ友誼的ナルハ長官始メ政府當局者ノ輿論指導ニ負フ所大ナルヘク右ハ日本政府ノ多トシ居ル處ニシテ幣原大臣ハ海軍問題ノ圓滿ナル協定ニ依リ日米ノ親善關係増進ノ爲益々貴長官ト協力シタキ意見ナル』コトヲ述ヘタルニ長官ハ『米國ノ國論指導ノ如キハ微力ナル自分一己ノ容易ニ爲シ得ル處ニ非サルモ幣原男ノ見ラルル通り日本ニ對スル一般國論ノ良

好ナルコトハ正ニ事實ニ相違ナキヲ以テ此ノ傾向助成ノ爲努力スルコトハ自分ノ最モ本懐トスル處ナリ右ノ點特ニ幣原男ニ御傳ヘテ請フ』ト述ヘタリ右ニ關聯シ大使ヨリモ『自分ハ日米間ニ經濟的文化的提携ヲ促進スルコトヲ以テ自分ノ重要ナル使命ト心得居ルト共ニ差向キ海軍協定及排日立法修正ノ二問題ヲ満足ニ解決スル様努力シタキ決心ヲ有スル次第ナルカ海軍問題ハ「ロンドン」會議ニ於テ必ス圓滿ナル解決ヲ見ルニ至ル可ク又排日立法修正問題モ親シク日本ヲ承知セラルル「フーヴァー」大統領及貴長官ノ在任中ニ圓滿解決ヲ見ルニ至ルヘシト確信シ居ル』旨ヲ特ニ思フ所アリテ附言シタルニ長官ハ『排日立法通過ノ際ニハ自分モ深ク之ヲ遺憾トシタル一人ナルヲ以テ將來適當ノ時機ニ至ラハ右修正ノ爲ニ努力ヲ試ミル積リナリ』ト極メテ熱心ナル態度ヲ以テ應酬セリ

第八項 「ドーズ」大使ノ日米豫備交渉回避

十一月二十九日松平大使「ドーズ」大使ニ會見同日「マクドナルド」首相ニ述ヘタルコト(本章第二節第四項(二)參照)ヲ詳細説明シ米國政府ノ好意アル考慮ヲ得タキ旨述ヘタルカ「ドーズ」大使ハ『右ノ話ヲ米國政府ニ取次クコトハ喜テ爲スヘキモ實ハ從來大使トシテ訓令ノ下ニ英國政府ト交渉シ尙貴大使ニ對シテモ訓令ニ依リ總テ隔意ナク御話シ居リタルモ米國政府ニ於テ既ニ多數ノ全權ヲ任命シタル以上ハ特ニ政府ヨリ訓令ナキ限リ今後貴大使ト「Confere」スルコトハ頗ル機微ノ關係アリ』ト述ヘタルニ付松平大使ハ『全權ノ職務ハ會議ノ開始ト同時ニ生スルモノト思ハルルノミナラス豫備交渉ハ單ニ外交的ニ意見ヲ交換スル次第ニ付自分モ大使トシテ米大使ニ御話スル次第ナリ假令非公式ノ交渉ニシテモ二ヶ所ニ於テ話ヲ爲スコトハ動モスレハ混亂ヲ來ス虞アルニ付英國政府トノ交渉ト關聯シ當地ニ於テ御話スルコトヲ便宜ト思考シ此ノ點ハ出淵大使ヨリモ國務長官ニ話シセラルル筈ナリ』ト述ヘタル處「ドーズ」大使ハ不取敢右ノ次第ヲ報告スヘキ旨述ヘ我説明ニ付テハ何等ノ批評ヲ避ケタリ

右「ドーズ」大使ノ態度ニ對シ松平大使ハ『既ニ「ワシントン」ニ於テ出淵大使ト國務長官トノ間ニ話始マリ國務長官ヨリ覺書迄提出スルニ至リタルコトト豫期以上ニ多數代表ノ任命ノ結果内輪ノ聯絡ヲ面倒ト思ヒ居ルコトト日本ノ要求カ困

難ヲ來スモノト考ヘタルコト等ノ爲交渉ヲ避ケントセルモノカト思ハル何レニセヨ「マクドナルド」首相ト話シ居ルコトハ同時ニ米國側ト關聯シテ交渉スルニ非サレハ纏リ付カサル次第ニ付當地ニ於テ從來ノ如ク隔意ナク「マクドナルド」「ドーズ」トノ間ニ話シスル方便宜ト思考スルモ前記ノ如キ次第ニ付特ニ國務長官ヨリ訓令ヲ出サシムル様「ワシントン」ニ於テ話シセラルルコト必要ト思ハル」トノ所見ヲ上申シ來レリ（本章第二節第六項末段參照）

第九項 「キヤッスル」國務次官補東京特派問題

(一) 「キヤッスル」國務次官補特派方内意表

十二月六日出淵大使ハ國務次官ノ求メニ依リ往訪セル處「實ハ極メテ機微ナル問題ナルニ付何等措置ヲ採ル前ニ先ツ以テ貴大使ト腹藏ナキ意見ノ交換ヲ爲ス様國務長官ノ命ニ依リ御足勞ヲ煩シタル次第ナリ」ト前置キシテ左記書キ物ヲ示シタル上「大統領ハ豫テヨリ駐日大使ノ人選ニ關シ種々腐心シ居ルモ諸般ノ關係上今以テ適任者ヲ得ルニ至ラス甚タ遺憾ニ考ヘ居ル次第ナル處一方 ロンドン」軍縮會議差シ迫レル此際適當ノ人物ヲ東京ニ派遣スルコト必要ナリト認メ彼是レ詮議ノ結果「キヤッスル」次官補ヲ任命スルコトニ内定セリ尤モ「キヤッスル」ハ一身ノ關係モアリ又米國政府トシテモ此際同官ヲ長期ニ互リ手離シ難キニ付任命ノ形式ヲ Ambassador on special mission トシ「ロンドン」會議終了ノ頃迄本邦ニ駐在セシムルコトト致度キ意向ナルカ右日本政府ニ於テ受諾可能ナルヤ」ト述ヘタルニ付大使ヨリ「キヤッスル」氏ノ爲人ハ日本政府ニ於テモ充分承知シ居リ同官ノ爲人ニ對シテハ元ヨリ満足ノ意ヲ表スヘキ事自分ノ信シテ疑ハサル所ナリ唯前記任命ノ形式ニハ或ハ考慮ヲ必要トスルヤモ知レス兎ニ角御話ノ次第直ニ本國政府ニ電報スヘキカ米國政府モ「ネヴィル」代理大使ヲシテ幣原大臣ニ非公式ニ申入レシメ帝國政府ニ於テ大體異存無キコト判明セハ直チニ正式ニ「アグレマン」ヲ求ムル手續ヲ執ラシムルコトトシテハ如何」ト告ケタル處次官ハ「早速右様取計フヘシ」ト答ヘタリ而シテ米國政府ニ於テハ我方ノ同意ヲ得次第上院ノ協賛ヲ求メ年内ニモ出發赴任セシメタキ意向ナリシ如シ

The President has determined that, because of the important negotiations which are to take place at the conference

in London beginning in January on the subject of naval armaments, he will send Mr. William R. Castle, Jr. on special mission as Ambassador to Japan in order that there may be in Japan while the conference is in session an American representative who is familiar with the problems involved and the sincere desire of this Government for the reduction of naval arms and in order that he may, if it be so desired, give aid to the Japanese Government during the negotiations complete understanding of the American position.

It is because of his fitness for that service that the President has determined to send Mr. Castle.

Mr. Castle has been one of the chief executives of the Department of State since 1919. He has been Chief of the Division of Western European Affairs and has been and still is an Assistant Secretary of State. He will return to his duties as Assistant Secretary of State in Washington at the end of the London Conference.

(二) 右ニ關スル出淵大使意見上申及帝國政府ノ右申出受諾

右ニ關シ出淵大使ノ上申セル意見左ノ如シ

『米國政府カ日本ノ如キ重要ナル任地ヲ今春以來空位ノ儘トシ居ルコトニ付テハ當國各方面ニ於テ相當問題トナリ居ルモノノ如ク近時新聞ニモ右消息現ハルルニ至リタルカ國務省當局ニ於テモ特ニ「ウェスト」事件（註）以來適任者ノ物色ニ焦リ居ル模様ナリ現ニ兩三日前「マクヱー」大使來訪ノ節右國務省側ノ焦慮振テ語リ同省ニテハ最近「カナダ」公使ヲ辭職セル「フィリップス」ニ口ヲ懸ケタルモ同人ハ容易ニ之ヲ承諾セス更ニ自分ニ對シ初メテ軍縮會議中ナリトモ歸任スル様態通シ居ル始末ナルカ自分ニ於テハ種々都合上應諾困難ナリ尤モ大統領ノ希望トアレハ更ニ考慮スル考ナリト内話セル次第アリ察スルニ米國政府ハ窮餘「キヤッスル」ヲ派遣スルコトニ内定セル義ト存セラルル處「キヤッスル」ハ國務省ニ於テ長ク歐洲關係ノ事務殊ニ不戰條約及軍縮問題ヲ擔任シ居リ我國ニ對シ平素極メテ好感ヲ有シ屢々率直ニ有益ナル消息ヲ洩シ吳レタルコト御承知ノ通ニ有之且人物モ申分ナキニ付右米國側特別ノ事情御諒察ノ上成ルヘク「アグマレン」ヲ速ニ與ヘラルル様致シタシ尙「キヤッスル」着任ノ上ハ軍縮事項ノミナラス一切ノ館務ヲ主掌スル筈ニテ普通ノ大使ト何等異ルコトナク只滞在僅ニ數ヶ月ニ過キサル關係上特殊ノ形式ヲ執ルコトト爲シタル次第ナリト云フ』

帝國政府ハ十二月十日右「キヤッスル」大使任命ニ同意ヲ與ヘタルヲ以テ米國政府ハ直チニ十一月十日右任命ニ對スル上院ノ協賛ヲ得之ヲ發表セリ

(註) 昭和四年十一月初メ米國政府ハ「クローリッヂ」大統領時代ノ内務長官「ロイ、オーエン、ウェスト」ヲ駐日大使ニ任命セントシ帝國政府ノ同意ヲ求メ來リタルモ其後ニ至リ急ニ之ヲ撤回セリ

(三) 本件ニ關スル米國新聞論調

十二月十日大統領ハ國務次官補「キヤッスル」ヲ「ロンドン」軍縮會議中日本ニ駐在スヘキ特派大使ニ任命スルト共ニ直チニ上院ノ協賛ヲ求ムル措置ヲ採リタル旨同日「ホワイ、ハウス」ヨリ發表セラレタリ

尙大統領ハ新聞記者團ニ對シ米國政府ハ軍縮事項ニ通曉セル人物ヲ東京ニ駐在セシメン事ヲ欲シタルカ「キヤッスル」次官補ノ任用ヲ見タルハ同官ノ軍縮通ナルノミナラス特ニ右「ボスト」ニ適任者ナル事ニ依ル次第ナリ「キヤッスル」ハ軍縮會議ノ仕事完了ノ上ハ國務次官補ニ復任スヘシト述ヘタル趣報セラレタリ

右ニ關シ十一月主要新聞ハ「キヤッスル」駐日大使任命ヲ報スルト共ニ日本ノ七割要求ハ極メテ困難ナル問題ナルニ付特ニ同氏ヲ派遣シ其ノ要求ヲ緩和セシメントルスモノナルヘシトノ趣旨ヲ報シ就中「ニューヨーク、タイムズ」ハ日本ノ巡洋艦及潛水艦ニ對スル要求ハ米國官邊ニ少カラス不滿ノ念ヲ生セシメタルカ巡洋艦ニ對スル要求ハ少クトモ英米ヨリ觀レハ根據ナキ危惧ニ基クモノニテ又潛水艦ニ付ラハ英國側ハ人道ノ見地ヨリ全廢方ヲ日本ニ説クヘキカ右全廢實現セストスルモ潛水艦ノ使用ヲ相當ノ程度ニ局限スル協定成立方ニ努ムヘシト述ヘタリ

第十項 會議ノ議事方法、比率問題、主力艦問題、輿論指導方法等ニ關スル

帝國政府訓令及「スチムスン」國務長官出淵大使會談

(一) 訓令

第七項 (二) 記載ノ國務長官出淵大使會談ニ關シ十二月十一日帝國政府ハ出淵大使宛左ノ通訓令セリ

『(一) 「ロンドン」會議ノ議事方法ニ關スル國務長官ノ意見ニ對シテハ我方ニ於テ何等異存ナキニ付其ノ旨同長官ニ回答セラレ度ク帝國政府トシテハ對英回答中ニモ明記シタル通會議開催前ノ非公式會談ニ重キヲ措クモノニシテ重要問題ニ付テハ右非公式會談ニ依ル豫備の交渉ニテ協議ヲ纏メ置キ本會議開催ノ際ニハ最モ平和ナル空氣ノ中ニ國際和親ノ實證ヲ中外ニ示シ度希望ナルニ付國務長官ニ於テモ此ノ意味ニ於テ會議開催前ノ豫備の交渉ヲ是非成功セシムル様協力アリ度旨申添ヘラレ度シ

(二) 我方ニ於テ實際ノ事情ニ依ル解決方法ノ攻究ヲ「ロンドン」ニ於テ爲サムコトヲ希望スルハ固ヨリ日米間ノ非公式會談ヲ華府ニ於テ爲スコトヲ避ケムトスル次第ニハ非ス唯タ具體案ニ付テノ交渉ヲ兩地ニテ同時ニ行フトスレハ實際上ノ問題トシテ混雜ヲ來タス虞アルヘシト考ヘタル爲ニシテ此邊ノ事情ニ付テハ國務長官ニ於テモ何等誤解ナキコトトハ存スルモ爲念同長官ニ篤ト説明シ置カレ度シ

(三) 主力艦協定隻數ノ減少ハ保有隻數ノ少キ國ニ不利ノ結果ヲ齎シ減少ノ程度ニ依リテハ比率改訂ノ必要ヲ生スルニ至ルヘキヲ以テ我方トシテハ右ノ如キ困難ナル問題ヲ伴フ虞ナキ艦型ノ縮小ヲ採用シタキ意嚮ナルカ何レニスルモ代換開始期ノ延長ニ付テハ各國トモ強キ反對ナキ模様ナルニ付先ツ以テ此點ニ付協議ヲ纏メ右協定ノ見込立タル後隻數艦型、艦齡等ノ問題ニ移ルコトヲ適當トスヘシ就テハ米國側ヨリ重ネテ主力艦問題ニ關スル我方ノ所見ヲ求ムルニ於テハ右ノ趣旨ニテ可然應酬セララル様致度シ

更ニ十三日帝國政府ハ米國政府當局ト帝國全權トノ會談發表方ニ關シ國務長官ト打合セ方左ノ通訓令セリ

『帝國全權及大統領國務長官ノ會談ニ關シテハ不必要ニ世論ヲ刺戟セス又第三國ノ疑惑ヲ招カサル範圍内ニ於テ或程度迄新聞紙ニ發表スルコト輿論ヲ「リード」スル見地ヨリ必要ナリト認メララルニ付右豫メ米國側ト打合セノ上會談終了後發表ノ形式内容範圍等遲滞ナク電報アリ度シ』

(二) 右ニ關スル「スチムスン」國務長官出淵大使會談

右ノ訓令接受後出淵大使ハ十四日國務長官ヲ往訪左ノ通會談ヲ爲シタリ

(一) 大使ヨリ前記訓令中(一)ノ趣ヲ述ヘタルニ長官ハ深く満足ノ意ヲ表シ英國政府ニ於テモ大體米國側ノ意嚮ニ同意ヲ表シタル旨内話セリ

(二) 次テ大使ヨリ前記訓令中(二)ニ付篤ト帝國政府ノ趣旨ノ存スル所ヲ説明セル處長官ハ『軍縮問題ニ付テハ現ニ當地ニ於テ貴大使ト意見ヲ交換シツツアルノミナラス近ク日本全權トモ腹藏ナク會談ヲ爲スコトナリ居ルニ顧ミ今暫ク從來通り「ワシントン」ニテ話合ヲ繼續スルコトト致シタシ尤モ前回ニモ御話シタル通「ドーズ」大使ハ松平大使ヨリ承リタルコトハ詳細報告スルコトトナリ居ルニ付右御含ヲ願ヒ度シ』ト述ヘタリ

(三) 大使ヨリ十三日ノ訓電ニ基キ新聞發表ノ件ニ付懇談シタルニ長官ハ『日本全權ト會談後何等カノ公表ヲ爲スコト輿論指導上極メテ有益ナルヘシト考ヘラルルニ付適當ノ案文ヲ考ヘ置クヘシ』ト答ヘタリ

(四) 辭去スルニ當リ長官ハ大使ヲ引止メ『今回ノ「ロンドン」會議ハ極メテ重要ナル會議ト認メララルル處其ノ目的達成ノ爲ニハ米國トシテハ日本ノ眞實ナル協調ト援助トヲ求メサルヘカラス此ノ點重ネテ幣原男ニ電報相成タシ尙比率問題ニ付テハ屢々貴大使ヨリ主張セラレタル次第モアリ米國政府トシテハ日本側ノ御趣旨ノ在ル所ハ充分ニ諒解シ居ル積ナルカ「ロンドン」會議ニ於テ本問題ニ付議論ヲ戰ハス事ハ會議ノ紛糾ヲ來シ甚タ面白カラサル結果ヲ招ク虞アルニ付成ルヘク之ヲ避クル様致シ度ク少クトモ日米兩國間ノ關スル限リハ互ニ胸襟ヲ開キ所要海軍力ニ付太平洋ノ各事情ニ基キ意見ヲ交換スルニ於テハ必ス兩國間ニ満足ナル解決案ヲ發見シ得ヘシト確信スルニ付其ノ邊ノ事モ御見込ニ依リ幣原大臣ニ傳ヘラレ度シ』ト極メテ熱心ナル態度ヲ以テ述ヘタリ右ニ對シ大使ヨリ『比率問題ニ對スル日本ノ主張ハ既ニ幾度モ申述ヘタル通日本政府ニ於テ特ニ重キヲ置ク所ナルヲ以テ右ニ關スル主張ヲ棄ツル事絕對ニ不能ナルモ實際ノ事情ニ基キ意見ヲ交換スル事素ヨリ有益ト認メララルルニ付來ル十七日ノ貴長官帝國全權會談(國務長官ハ「表立チタル形式ヲ避クル爲自分ノ外國務省側ヨリ一、二名ヲ出スニ止ムル積リナリ日本側ヨリハ兩全權及貴大使ノ出席ヲ希望ス」ト語レリ)

ノ如キ場合ニハ米國側ヨリ腹藏無ク具體的意見ヲ述ヘラレ豫備的商議ノ促進ヲ計ル事ト致度シ』ト應酬セリ(尙出淵大使ハ二日長官ト會見ノ際日本全權ノ「ワシントン」滞在ハ短時日ナレハ豫メ米國側ニ於テ準備ヲ進メ具體的意見ヲ交換シ得ル様致度旨註文シ尙「キヤスル」次官補ニ對シテモ特ニ同様ノ趣旨ヲ申入置キタルモ前記會談ニ當リ重ネテ長官ニ對シ右ノ趣旨申入置キタリ尤モ國務長官ハ當時連日長時間ニ互リ軍縮問題ニ關スル全權會議ヲ催シ居リタリ)

尙十二月十四日出淵大使「キヤスル」大使ニ面會ノ際「キヤスル」大使ハ『自分ハ暫ク軍縮問題ニ付深キ相談ニ與ル機會ナカリシカ今回駐日大使トナリ關係上連日會議ニ加ハリ最近ノ經過等ニ付知ル所アリ何レ當地出發赴任ノ途ニ就ク積リナルニ付是非其ノ前親シク内狀ヲ打ち明ケ懇談致度シ』ト語リ又十三日ノ會議ニ於テ「ジョーンズ」少將ハ日本ノ大型艦ニ關スル對米七割要求ハ不條理ニテ殊ニ「ジ、ネーヴ」會議當時ニ於ケル日本ノ態度トハ如何ニモ一致セサル點モアリ甚タ諒解ニ苦シムト熱心ニ語リタル旨極秘トシテ述ヘタリ

第十一項 若槻財部兩全權ノ米國到着及兩全權ノ米國當局トノ交渉

(一) 若槻財部兩全權ハ本章第一節一項所載ノ如ク米國側ノ希望ニ應シ同國經由渡英ニ決シ十一月三十日橫濱出帆ノ「サイペリア」丸ニテ十二月十日「シャトル」着市俄古ヲ經テ十六日華府ニ至リ國務長官ト二回ニ互リ懇談ヲ遂ケ又大統領トモ會談シ十九日紐育ニ赴キ二十日「オリンピック」號ニテ倫敦ニ向ヒタリ

(二) 兩全權ハ十七日及十九日ノ二回ニ互リ國務長官トノ間ニ日米兩國ノ主張ノ根本ニ付率直且詳細ナル意見ノ交換ヲナシタルカ第一回ノ會談ニ於テハ國務長官ハ米國カ多大ノ犠牲ヲ拂ヒテ始メテ成立セル「ワシントン」條約規定ノ主力艦ヨリ高キ比率ヲ要求スルコトハ米國民ニ惡印象ヲ與フルモノナルニ付比率ノ問題ヲ提起スルコトナク具體問題トシテ取扱ハンコトヲ求メタルニ對シ若槻全權ハ我方七割要求ノ理由ヲ詳述シテ具體的數字ヲ呈示シタリ

第二回ノ會談ニ於テハ國務長官ハ我方主張ノ數字ハ米國民及議會ヲシテ對抗の増艦ヲ余儀ナキニ至ラシムルモノトノ考ヲ抱カシムルヤ必セリトテ我主張ニ反對シタリ更ニ二十八日大統領ノ公式晚餐會ノ機會ニ於テ大統領ト若槻全權トノ間ニ比率

問題、食糧問題、防備及主力艦問題、潛水艦問題ニ關シ意見交換アリタリ

尙兩全權ハ米國民ヲシテ我主張ヲ了解セシムル爲「シャトル」、市俄古、華府及紐育ニ於ケル演説、新聞紙ニ與ヘタル聲明及新聞記者トノ質疑應答ニ於テ率直明確ニ我立場ヲ表示スル所アリタリ

第十二項 若槻財部兩全權米國出發後ニ於ケル出淵大使ト米國當局トノ會談

(一) 巡洋艦、主力艦、潛水艦問題ニ關スル出淵「キヤッスル」兩大使會談

十二月二十一日出淵大使ハ「キヤッスル」大使ヲ往訪シ先ツ「若槻、財部兩全權米國通過ニ際シ大統領國務長官始メ各方面ニ於テ多大ノ好意ヲ示サレ且相互ノ意見交換ノ機會ヲ與ヘラレタルコトハ自分ノ深ク感謝シ居ル處ニテ米國側ノ歡迎振ハ詳細日本政府ニ電報シ置キタリ」(註)ト告ケタルニ「キヤッスル」大使ハ「日本兩全權ノ真摯ナル態度ト腹藏ナキ意見ノ交換ハ米國官邊ニ多大ノ好感ヲ與ヘタリ今次ノ會談ニ依リ假令實質的ニハ別段纏リヲ見ルニ至ラサリシニモセヨ會議ノ成功ニ對シ多大ノ貢獻ヲ爲シタルコト言フ俟タスト認メ米國政府ハ深ク満足シ居レル」旨切言セリ

次テ出淵大使ヨリ「國務長官ハ我全權トノ二回ノ會談ニ於テ日本側ノ比率ニ關スル要求等ニ對シ從來ノ通り熱心且率直ニ反駁ヲ加ヘラレ又米國民ノ感情ヲ引合ニ出シ日本ハ六割比率ニ基ク主力艦ニ於テ著シク減縮ヲ爲シ之ニ依リテ生スル財政上ノ餘力ヲ七割ノ高率ナル巡洋艦ニ振向クト言フカ如キ新論法ヲ用ヒラレタル處右ハ若槻全權ノ直チニ反駁シタル通り甚タ謂ハレナキコトニシテ要スルニ日本トシテハ七割ノ比率ヲ主張スルト共ニ英米ニ於テ低下シ得ル限り之ニ比例シテ之ヲ低下スル決意ヲ有スル次第ナリ此ノ點誤解ナキコトヲ希望ス」ト念ヲ押シ引續キ「本日ハ全然非公式ニ貴大使ヨリ稍々具體的ニ米國側ノ意嚮ヲ承リ度シ」ト前置キシ「日本ハ大型巡洋艦ニ關シ米國ノ七割即チ英米ノ各保有量ハ十五及十八ニテ落付クモノト假定シ十二萬六千噸十三隻ヲ要求スルモノナルカ右ニ關スル米國政府ノ意嚮ハ貴大使ニ於テ此際述フルコトヲ欲セラレサルヘキモセメテ米國海軍側ノ大體ノ空氣ナリトモ承ルヲ得ヘキヤ」ト尋ネタルニ「キヤッスル」大使ハ「噸數問題ハ結局倫敦會議ニ持越サルヘキ事項ニシテ假令平素惡意ノ間柄ナル貴大使ニ對シテスラ此際米國ノ意嚮ヲ申上クルコ

トハ不可能ナリ」ト述ヘ適確ナル意見ヲ述フルコトヲ躊躇シタルカ結局日本ニ於テ一萬噸巡洋艦十二隻ヲ割當ツル態度ナラハ米國海軍側ヲ納得セシムル望アルモ十三隻殊ニ過渡案トシテ十四隻ノ如キハ同海軍側ニ於テ容易ニ同意シ得サルヘキノミナラス英國側トシテモ愚昧ナル濠洲ノ輿論ニ刺戟セラレ到底之ヲ承知セサルヘク殊ニ「マクドナルド」内閣ハ最近八票ノ差ニテ漸ク敗北ヲ免レタルカ如キコトモアリ日本ノ要求ヲ容認スルコト一層困難トスル處ナルヘシト述ヘタルニ付此ノ機會ニ於テ出淵大使ヨリ「貴大使ハ愚昧ナル濠洲ノ輿論ヲ云々セラレタル處國務長官モ比律賓ニ關スル米國ノ輿論ヲ引合ニ出サレタルカ右米國ノ輿論モ甚タ諒解ニ苦シム所ナリ日本ハ既ニ華府會議ノ際日英同盟ヲ潔ク捨テ爾來極東ニ於テ獨立獨歩平和政策ニ則リ經濟的立國就中日米支間ニ經濟的提携ヲ旨トシ居リ濠洲若ハ比律賓ニ對シ之ヲ脅威スルカ如キ意圖ヲ抱クコトハ絶體ニ有リ得ヘカラサル所ナルニ付斯カル誤レル米國ノ輿論ハ政府當局ニ於テ適當ニ啓發セラレンコトヲ希望スル」旨述ヘ置キタリ

次テ驅逐艦以外ノ各艦種ニ關シ意見ヲ交換シタル處「キヤッスル」大使ハ大要左ノ通語レリ

『(主力艦)米國政府ニ於テハ主力艦ヲ以テ海軍力ノ核心ト認メ之ヲ頗ル重要視シ居リ英國カ強大ナル商船隊ヲ有シ一朝有事ノ際何時ニテモ六吋砲ヲ搭載シ得ル現狀ナルニ鑑ミ主力艦ヲ廢止スルカ如キハ思ヒモ依ラサルコトナリ又其ノ艦型縮小ハ英國ニシテ「ロドネー」「ネルソン」ヲ廢棄スル決意ヲ示ササル限り相談ニ應スル餘地ナシ曩ニ國務長官ヨリ貴大使ニ對シ御話アリタルコトアル隻數減少ニ付テハ軍備縮小ナル見地ヨリ一案トシテ考ヘ出シタル次第ニテ必スシモ右主張ニ熱心ナル譯ニ非ス要スルニ米國政府トシテハ日本政府ノ主張セララル代換延長及艦齡延長ニ最モ賛成ナルモノニシテ之ニ依リ國費ノ節減モ割合ニ大ナルモノアルニ鑑ミ此ノ點ハ日米一致シテ達成セサルヘカラス(右「キヤッスル」大使ノ所言ニ對シ出淵大使ヨリ主力艦ノ隻數減少ナル案ハ日本ニトリテ容易ニ同意シ得サル所ナル旨更ニ念ヲ押シ置キタリ)

(巡洋艦)米國海軍部内ニハ大型巡洋艦ノ建造ニ熱心ナルモノ多キモ右ハ概シテ老人連ニ多ク若手中ニハ大型艦ノ必要ヲ

認ムルト同時ニ歐洲大戰ノ結果ニ徹シ相當多數ノ輕快ナル小型巡洋艦ヲ有スルコトハ得策ナリト熱心ニ主張スルモノアリ

又英米協定ノ十五對十八ノ數字ハ最早低下セシムルコト不可能ナルカ如ク總噸數ニ於テモ最近英國政局ニ顧ミ之レ以上低減スルコト困難ト見受ケラル右ハ誠ニ遺憾トスル所ナルモ英國カ最後ニ十五隻迄切り下ケタル事情ヲ汲ミ之レ以上ニ英國ニ迫ルコトモ實際氣ノ毒ナル感ナキニモアラス(右ニ對シ出淵大使ヨリ英米ニ於テ噸數ヲ一層低下セハ日本モ之ニ比例シテ低減シ軍縮ノ目的ヲ達成スル爲協力シタキ決意ヲ有スルモノナルコトハ既ニ繰返シタル處ナルカ唯今貴大使ヨリ英米協定ノ數字ヲ最早此ノ上低減スルコトハ絶望ナルカ如キ意見ヲ承ハルハ遺憾ニ堪エストノ趣旨ヲ述ヘ置キタリ)

(潛水艦)米國側ニテハ飛行機ハ爆彈投下ヨリモ寧ロ偵察發見(Battle)ニ效力大ナルモノアリトシテ其ノ發達ニ注意ヲ拂ヒ居ル次第ニテ飛行機ニ發見セラレサル深度ニ於テハ一時間八哩程度ノ速力ヲ有スルニ過キササル潛水艦ハ戰闘上餘リ價值ナシトノ見解ヲ有スルヲ以テ其ノ噸數ヲ増スカ如キコトヲ欲セス日本ニ於テ八萬噸ヲ主張セラルルコト海軍側ニ頗ル難色アリ

尙佛國ノ態度ハ追々明瞭トナリツツアル處依然トシテ「グローバル、トネエイジ」三軍牽連國際聯盟關係ヲ主張スルト共ニ地中海ニ關シ關係國間ニ何等カノ協定ヲ爲サムト努メ加之「ケログ」條約ニハ安全保障ノ規定ナク又侵略國判定ノ方法ナキコトヲ主張セムトスルモノノ如キ處右ハ素ヨリ幾分懸引アルヘキモ日英米ノ態度ニ比シ著シキ逕庭アリ果シテ同國カ倫敦會議ニ於テ誠意協調スヘキヤ心許ナシ」

右「キヤスル」大使ノ所言ニ關シ出淵大使ハ「右ハ全然隔意ナキ態度ヲ以テ述ヘラレタルモノナルカ其ノ内特ニ注意スヘキ點ハ(イ)米國海軍ニ於テハ日本ニ對シ結局一萬噸十二隻丈ケナラハ容認セムトノ意嚮ナルコト及(ロ)主力艦ニ付テハ代換延期及艦齡延長ニ依リ節約ヲ計リ軍縮ノ實ヲ舉ケタルコトヲ標榜セムトスルコトノ二點ナリト認ム」ル旨ヲ報告シ來レリ

(註) 米國側ノ歡迎ニ對シテハ十二月二十三日 天皇陛下ヨリ大統領宛御禮電ヲ發送遊ハサレタルカ若槻全權

ハ十二月二十日紐育出帆直後、又幣原大臣ハ同月二十四日國務長官ニ對シ深厚ナル謝意ヲ表シタリ

(二) 我方要求ノ巡洋艦保有量ニ關スル出淵大使宛訓令及右ニ關スル

「スチムスン」國務長官出淵大使會談

一、我方ノ提案ハ巡洋艦ノ増勢トナルヘシトノ米國國務長官ノ主張ニ對シ帝國政府ハ十二月三十一日出淵大使宛左ノ如ク電訓セリ

『國務長官カ兩全權ニ對シ日本側ニ於テ二十萬六千噸ノ巡洋艦勢力ヲ二十二萬六千噸ニ増加方ヲ申出テ失望ノ念ヲ禁スル能ハサリシ旨述ヘタルハ我方ニ於テ大型巡洋艦ニ付米國ノ七割ヲ要求スル關係上此種巡洋艦ニ於テ米國保有量ヲ十八萬噸トセハ我保有量ハ十二萬六千噸即チ現有噸數ヨリ約二萬噸(實際ハ一萬七千六百噸)増大ノ結果トナルヘキニ鑑ミ此ノ事實ヨリ直チニ我方ニ於テ巡洋艦勢力ヲ二十萬六千噸ヨリ二十二萬六千噸ニ増加方要求スルモノナリト爲シタルカ如ク推察セラルル處我方ニ於テハ嘗テ巡洋艦ニ付二十二萬六千噸ヲ要求シタルコトナク他面之ヲ實際的事情ニ付考フレハ大型巡洋艦ニ付テハ米國側ニ於テ十八萬噸ヲ要求スル以上我方ニ於テモ其ノ七割タル十二萬六千噸ヲ必要トシ從テ我現有噸數ヨリ約二萬噸増大ノ結果トナルヘキモ右ノ場合小型巡洋艦ニ於テハ補助艦對米總括的七割ノ主張並潛水艦昭和六年度末現有量保持ノ要求トノ調和ヲ圖ル關係上恐ラク現有噸數ヨリ縮少スルコトナルヘク大型巡洋艦ニ於テ約二萬噸増大スルモ巡洋艦全體ノ勢力ニ於テ必然的ニ二萬噸増大スル次第ニハ非ス將又大型巡洋艦ニ於テ約二萬噸増大スルト謂フモ右ハ米國側ニ於テ十八萬噸ヲ要求スルカ爲ニシテ若シ米國側ニ於テ之ヲ低下シ得ルニ於テハ我方ニ於テモ之ニ連レ要求噸數ヲ低下シ得ヘク必シモ約二萬噸ノ増大ヲ必要トセサルヘキ筋合ナリ此點誤解ナキ様適當ナル機會ニ米國政府當局ニ徹底セシメ置カレ度シ』

二、右訓電ニ基キ出淵大使ハ昭和五年一月六日(國務長官徵恙ノ爲會見ノ機會無カリキ)國務長官ト會見セリ

先ツ出淵大使ヨリ右訓令ニ基キ篤ト説明シタル處國務長官ハ過日『若槻全權トノ會談ノ際引用セル數字ハ當時自分ニ於テ多少考慮ヒヲ爲セル點モアリ實ハ右會談ノ際ハ專ラ八吋砲艦ニ付御話スル積リニテ貴大使ヨリ十二萬六千噸ナル數字ヲ屢々承リ居リタル爲右ハ日本ノ現有噸數ニ比シ約二萬噸ノ差アル事ヲ言ハムトシタル次第ナレハ當時自分ノ言ハ其ノ意味ト御承知願度シ』ト辯明シ『事實米國ハ日本カ一定ノ計畫ニ基キ有スル現在ノ勢力ニ七割ノ比率ヲ保ツ爲ニ更ニ約二萬噸ヲ増加セムトスルハ諒解ニ苦シム處ニテ少クトモ米國國論ヲ納得セシムル事ハ甚タ困難ト思考ス』ト述ヘタルニ付出淵大使ハ『長官ハ若槻全權トノ會談ニ於テ頻リニ米國國論ヲ繰返ヘサレタルカ日本側ヨリ見レハ米國側ニ於テハ現ニ一萬噸級ハ一隻シカ完成シ居ラス七隻ハ建造中ニテ十八萬噸ニ達スル爲ニハ更ニ十隻ヲ建造セサルヘカラス右ハ英國ニ對スル『バリチー』ノ關係上已ムヲ得サル事ハ自分ノ充分諒解シ居ル處ナルモ何レニスルモ事實上大擴張トシカ思ハレス斯カル大擴張ヲ爲サムトスルニ當リ僅カニ二萬噸位ハ問題トスルニ足ラサルヘシ過日若槻全權ヨリ申シタル通り日本ハ好ムテ十二萬六千噸ヲ主張スルモノニアラス若シ英米ニ於テ大型艦ノ保有量ヲ更ニ引下ケ得ハ日本ハ之ニ比例シテ低下スルニ躊躇セサルモノナリ英米兩國更ニ協議ノ上各自ノ大型艦保有量ヲ減少シ得ル餘地無カルヘキヤ貴長官ノ御見込ヲ承リ度シ』ト質シタル處長官ハ『其ノ點ハ自分ノ最念頭ニ置ク所ナルカ既ニ英米間ニ協定セル以上ニ英國ヲシテ切下ケシムルコトハ甚タ疑問ナリ』ト答ヘタルニ付出淵大使ヨリ繰返シ『日本ハ八吋砲艦ニ就キ英米側ニテ低下シ得ル限り之ニ比例シテ低下スヘキ決意ヲ有スルモノニ付其ノ點特ニ諒解セラレタシ』ト念ヲ押シ申入レタリ

次テ國務長官ハ話頭ヲ主力艦問題ニ轉シ『巡洋艦殊ニ八吋砲巡洋艦ニ就キ英國ヲシテ引下ケシムルコトハ今申上ケタル通頗ル疑問ナレハ從テ軍縮ノ實ヲ上クル爲ニハ主力艦ニ就キ出來得ル限り減縮ヲ計ラサル可カラス右ニ對スル貴大使ノ御意見如何』ト尋ネタルニ付同大使ハ『若槻全權ノ言ハレタル通り艦齡延長艦型縮小代換延期ノ方法ニ依リタキ考ナルカ米國側ノ意見如何』ト反問セルニ長官ハ『代換延期艦齡延長ニ付ラハ無論日本側ト全然意見一致スルモノナルカ唯一ツ困ルコトハ英國側ニ於テ工業力ノ關係上日本ノ如ク徹底ノ代換延期ニ同意シ兼ヌルカ如ク右ハ「マクドナルド」首

相カ勞働黨首領タル關係上失業問題ニ關聯スルモノニアラスヤト思ハル從テ英國トシテハ日本ノ主張セムトスル代換延

長期間ノ半分位ニテモ或ハ困難トスルヤモ計リ難ク依テ米國トシテハ此際艦數減少ノ方法ニ出ツルノ外ナシト認メ居レル處若シ公平ナル方法ニテ艦數減少ヲ爲スコトトセハ日本ハ贊同セラルヘキヤ』ト述ヘタルニ付同大使ハ『日本ハ御承知ノ通り主力艦ノ數少キヲ以テ此ノ上數ヲ減スルコトハ甚タ困難ナリ前申ス通り日本ハ艦型縮小ノ方法ニ依リタキ考ナルカ貴方ニ於テ右ニ對シ考慮シ得サルヤ』ト尋ネタル處長官ハ『米國海軍側ニ於テハ艦型縮小ニハ強ク反對シ居レルモ僅少ナル程度ナラハ考慮シ得ヘシ』ト述ヘタリ

別レニ臨ミ出淵大使ヨリ倫敦會議ノ成功ヲ希望スル旨述ヘタルニ長官ハ『自分ハ今回ノ會議ニ於テ日本ト充分ナル協力ヲ期待スルコトハ屢申上ケタル通ニシテ相互ニ満足ナル結果ヲ得サル限りハ會議ハ成功ト考ヘサル積リナリ』ト述ヘ一昨日(四日)午後新聞記者ヲ招キ會議ノ背景ヲ示ス爲秘密ノ會見ヲ爲セル際ニモ日米國交ノ良好ナル狀態ヲ充分説明スルト共ニ會議ニ於テ日本ト隔意ナキ協調ノ必要ナル所以ヲ特ニ説明シ置キタル旨附言セリ

第二節 日英豫備交渉

第一項 日英豫備交渉開始方懸談

(一) 非公式交渉開始方ニ關スル松平大使ヨリ「ウエルズレー」副次官ニ申入

第三章第二節第二項記載ノ帝國政府訓令接受當時外務大臣次官共ニ旅行中ナリシ爲已ムヲ得ス松平大使ハ十月十六日午後五時「ウエルズレー」副次官ニ面會回答書ヲ交付シタル上右訓令ノ次第ヲ詳細申入レタル處「ウエルズレー」ハ外相ニ報告シ尙電報ヲ以テ首相ニモ申送ルヘキ旨答ヘタリ

(二) 補助艦總括七割及八吋巡洋艦七割主張ニ關スル「マクドナルド」首相

松平大使會談